MELSEC-Q/QnA/Aシリーズ用
簡易ダウンロード ソフトウェアパッケージ

AutoLoader 設定ツール

形名
ELDR1C-DSWJ

オペレーティングマニュアル

ELDR1C-DSWJ

● 安全上のご注意 ●

（ご使用前に必ずお読みください）

本製品のご使用に際しては，本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連するマニュアルをよくお読みいただくと共に，安全に対して十分に注意を払って，正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

なお，本マニュアルで示す注意事項は，本製品に関するもののみについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては，CPUユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

この●安全上のご注意●では，安全注意事項のランクを「危険」，「注意」として区分してあります。

◇危険	取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
⚠注意	取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損傷だけの発生が想定される場合。

なお，⚠注意に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に，必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【設計上の注意事項】

◇危険

● パソコンから運転中のシーケンサに対するデータ変更，プログラム変更，状態制御は常にシステム全体が安全側に働くようにシーケンサシステムの外部でインタロック回路を構成してください。

また，パソコンからシーケンサCPUへのオンライン操作において，ケーブルの接続不良などによる交信異常発生時のシステムとしての処置方法を取り決めておいてください。

【立ち上げ・保守時の注意事項】

⚠注意

● パソコンを運転中のシーケンサCPUに接続して行うオンライン操作(AutoLoader実行ファイル，および，ロールバック用実行ファイルの実行)については，シーケンサ，関連製品，および，本製品のマニュアルを熟読し十分に安全を確認の上実施してください。

改　定　履　歴

※取扱説明書番号は，本マニュアルの裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	改　定　内　容
2007年12月	50EM8739-A	初版印刷
2010年4月	50EM8739-B	機種追加 ユニバーサルモデルQCPU Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU，Q03UDCPU/Q03UDECPU，Q04UDHCPU/Q04UDEHCPU，Q06UDHCPU/Q06UDEHCPU，Q10UDHCPU/Q10UDEHCPU，Q13UDHCPU/Q13UDEHCPU，Q20UDHCPU/Q20UDEHCPU，Q26UDHCPU/Q26UDEHCPU 一部追加 ご注意，総称・略称について，1.1節，1.3節，1.4節，1.5節，2.2節，4.6節，4.10節 一部変更 3.1節，4.13節，5.2節

本マニュアルによって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また
本マニュアルの掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

© 2007-2010 MITSUBISHI ELECTRIC ENGINEERING CORPORATION

ご注意

■弊社が紹介するMicrosoft® Windows® 対応の市販ソフトウェア製品について，各製品に対する保証は致しませんので，ご了承願います。
■本製品のソフトウェアの著作権は，三菱電機メカトロニクスソフトウエア株式会社にあります。
■本マニュアルの内容の一部または全てを当社に断りなく，いかなる形でも転載または複製することは，固くお断りします。
■本マニュアルの記述内容は，ソフトウェア，ハードウェアの改訂に追従するよう努力しておりますが，やむなく同期できない場合も生じます。
■本製品（マニュアル含む）は，ソフトウェア使用許諾契約のもとでのみ使用することができます。
本製品をインストールする前に，必ず添付ソフトウェア使用許諾同意書をお読みいただき，同意いただける場合のみ，本製品のインストールを行ってください。
■弊社の責に帰す事ができない事由から生じた損害，当社製品の故障に起因するお客様での機会損失，逸失利益，当社の予見の有無を問わず特別な事情から生じた損害，二次災害，事故補償，当社製品以外への損傷およびその他の業務に対する保証については，当社は責任を負いかねますので，ご了承ください。
■本マニュアルに記載されている内容は，お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

ご注意

■『AutoLoader設定ツール』で作成した実行ファイルは,必ず同じバージョンの『AutoLoader実行ツール』で使用してください。異なるバージョンを誤って使用した時，動作を保証できません。

Microsoft，Windowsは，米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Adobe，Acrobatは，Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。
Ethernetは，米国Xerox.co.ltdの登録商標です。
その他，本文中における会社名，商品名は，各社の商標または登録商標です。

は　じ　め　に

このたびは，AutoLoaderをお買い上げいただきまことにありがとうございました。
ご使用前に本マニュアルをよくお読みいただき，AutoLoaderの機能・性能を十分ご理解のうえ，正しくご使用くださいますよう，お願いいたします。

目　　次

1　概　要　　1－1 ～ 1－6

1.1　特　長 …… 1－1
1.1.1　AutoLoader設定ツールの特長 …… 1－1
1.1.2　AutoLoader実行ツールの特長 …… 1－2
1.2　機能一覧 …… 1－3
1.3　サポートするGX Developerプロジェクトデータ …… 1－4
1.4　サポートするCPU …… 1－4
1.5　サポートする接続経路 …… 1－5

2　システム構成　　2－1 ～ 2－2

2.1　製品構成 …… 2－1
2.2　動作環境 …… 2－2

3　インストール・アンインストール　　3－1 ～ 3－8

3.1　インストール …… 3－1
3.2　アプリケーションの起動確認 …… 3－6
3.3　アンインストール …… 3－7

4　AutoLoader実行ファイルの作成　　4－1 ～ 4－30

4.1　AutoLoader実行ファイルの作成手順 …… 4－1
4.2　メインウィンドウ …… 4－3
4.3　AutoLoader実行ファイルの読出・保存 …… 4－5
4.4　PC照合/書込プロジェクトおよび接続経路の設定 …… 4－7
4.5　PC照合/書込プロジェクトの選択 …… 4－8
4.6　PC照合/書込データの選択 …… 4－9
4.7　コメント範囲設定 …… 4－12
4.7.1　コメント範囲設定(QCPU/QnACPU) …… 4－12
4.7.2　コメント範囲設定(ACPU) …… 4－14
4.8　パラメータ照合レベルの設定 …… 4－17
4.9　デバイスメモリ範囲設定 …… 4－18
4.10　ファイルレジスタ範囲設定 …… 4－19
4.11　パスワード・キーワード解除設定 …… 4－21
4.11.1　パスワード解除設定(QCPU(Qモード)) …… 4－21
4.11.2　キーワード解除設定ダイアログ(QnACPU) …… 4－24
4.11.3　キーワード解除設定ダイアログ(ACPU) …… 4－25
4.12　RUN中書込確保ステップ設定(QCPU(Qモード)，QnACPU) …… 4－26
4.13　接続先設定ダイアログ …… 4－27
4.13.1　接続先設定手順 …… 4－28

5　アップロード機能　　5－1 ～ 5－4

5.1　アップロードデータファイルの解凍 …… 5－1
5.2　ログファイル …… 5－3

マニュアルについて

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号
GX Developer Version8　オペレーティングマニュアル	SH-080356

総称・略称について

本マニュアルでは，ソフトウェアパッケージ，シーケンサCPUなどのユニットを次の総称・略称で表しています。

総称／略称	総称・略称の内容
設定ツール	AutoLoader設定ツールの略称。
実行ツール	AutoLoader実行ツールの略称。
Windowsパソコン	Windowsが動作するパソコンの略称。
パソコン	Windowsパソコンの略称。
MELSOFT	三菱FA統合ソフトウェアの総称。
GX Developer	製品形名SW8D5C-GPPW，SW8D5C-GPPW-A，SW8D5C-GPPW-V，SW8D5C-GPPW-VAの総称製品名。
ACPU	AnNCPU，AnACPU，AnUCPU，QCPU(Aモード)の総称。 (ただし，AutoLoaderではA1，A2，A3，A3H，A3M，A52G，A73，A0J2，A3V，モーションコントローラ(SCPU)はサポートしていません。)
AnNCPU	A0J2HCPU，A1SCPU，A1SCPUC24-R2，A1SHCPU，A1SJCPU，A1SJHCPU，A1NCPU，A1NCPUP21/R21，A2CCPU，A2CCPUC24，A2CCPUC24-PRF，A2CJCPU，A2NCPU，A2NCPUP21/R21，A2NCPU-S1，A2NCPUP21/R21-S1，A2SCPU，A2SHCPU，A3NCPU，A3NCPUP21/R21，A1FXCPUの総称。
AnACPU	A2ACPU，A2ACPU-S1，A3ACPU，A2ACPUP21/R21，A2ACPUP21/R21-S1，A3ACPUP21/R21の総称。
AnUCPU	A2UCPU，A2UCPU-S1，A3UCPU，A4UCPU，A2USCPU，A2USCPU-S1，A2USHCPU-S1の総称。
QnACPU	Q2ACPU，Q2ACPU-S1，Q2ASCPU，Q2ASCPU-S1，Q2ASHCPU，Q2ASHCPU-S1，Q3ACPU，Q4ACPUの総称。 (ただし，AutoLoaderではQ4ARCPUはサポートしていません。)
QCPU(Aモード)	Q02(H)CPU-A，Q06HCPU-Aの総称。
QCPU(Qモード)	ベーシックモデルQCPU，ハイパフォーマンスモデルQCPU，ユニバーサルモデルQCPU，プロセスCPU，二重化CPUの総称。（ただしAutoLoaderは二重化CPUには対応していません。）
ベーシックモデルQCPU	Q00JCPU，Q00CPU，Q01CPUの総称。
ハイパフォーマンスモデルQCPU	Q02(H)CPU，Q06HCPU，Q12HCPU，Q25HCPUの総称。
ユニバーサルモデルQCPU	Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU，Q03UDCPU/Q03UDECPU，Q04UDHCPU/Q04UDEHCPU，Q06UDHCPU/Q06UDEHCPU，Q10UDHCPU/Q10UDEHCPU，Q13UDHCPU/Q13UDEHCPU，Q20UDHCPU/Q20UDEHCPU，Q26UDHCPU/Q26UDEHCPUの総称。
プロセスCPU	Q12PHCPU，Q25PHCPUの総称。
二重化CPU	Q12PRHCPU，Q25PRHCPUの総称。（ただしAutoLoaderは二重化CPUには対応していません。）
MELSECNET(Ⅱ)ボード	A70BD-J71AP23，A98BD-J71AP23形MELSECNET(Ⅱ)インタフェースボードの総称。
MELSECNET/10ボード	A70BD-J71QLP23，A70BD-J71QLP23G，A98BD-J71QLP23，A70BD-J71QBR13，A98BD-J71QBR13形MELSECNET/10インタフェースボードの略称。
CC-Linkボード	ECP-CL2BD形CompactPCI対応CC-Linkインタフェースボード， Q80BD-J61BT11(N)/Q81BD-J61BT11(N)形CC-Link Ver.2インタフェースボード， A80BD-J61BT11/A80BD-J61BT13形CC-Linkインタフェースボードの略称。
CC-Link IE ボード	Q80BD-J71GP21-SX/ Q80BD-J71GP21S-SX 形CC-Link IE コントローラネットワークインタフェースボードの総称。

1 概　要

AutoLoaderは，三菱FA統合ソフトウェアMELSOFTシリーズのシーケンサ設計・保守ツールGX Developerを使用せずに，パソコン上の簡単な操作でMELSECシーケンサ内のデータとの照合（PC照合）およびデータの書込（PC書込）を行うアプリケーションソフトウェアです。対応するシーケンサは，MELSEC-A，MELSEC-QnA，MELSEC-Qシリーズの各CPUです。

AutoLoaderは，次の２つのアプリケーションで構成します。

(1) AutoLoader設定ツール

- PC照合およびPC書込の対象となるGX Developerのプロジェクトデータと接続経路を選択して，ひとつの実行ファイルを生成します。
- 最大64台のネットワーク接続されたCPUもしくはマルチCPUに対する設定が可能で，PC照合およびPC書込の順序も指定できます。

(2) AutoLoader実行ツール

- AutoLoader設定ツールで生成した実行ファイルの実行により，複数のCPUに対して設定した順にPC照合およびPC書込を行います。
- PC書込前照合の実行結果が不一致の場合に，CPU内のデータを読み出して圧縮・保存します。
- PC書込完了後またはエラーによる中断後に，CPU内のデータをPC書込以前の状態に戻すことができます。
- PC照合およびPC書込の実行結果をログとして保存します。

1.1 特　長

1.1.1 AutoLoader設定ツールの特長

(1) 照合・書込データの選択
GX Developerで保存したプロジェクトデータからPC照合およびPC書込を行う対象データを選択します。
※日本語版 GX Developer Ver.8 以降のプロジェクトデータが対象となります。

(2) 対象メモリの指定
プログラムメモリ，標準RAM，ICメモリカード，標準ROM（ROM転送）への書込が可能です。

(3) 接続先指定
USB/シリアル，Ethernet，MELSECNET，CC-Linkなどを経由して接続することができます。

(4) 一括照合／書込の指定
最大64台のネットワーク接続されたCPUやマルチCPUに対する設定ができ，アクセスする順番も指定できます。

(5) 実行ファイルの生成と編集
選択したデータおよび各設定をまとめて，ひとつの実行ファイルを生成します。
また生成した実行ファイルの内容を読み出して，変更することも可能です。

ポイント

AutoLoader設定ツールとAutoLoader実行ツールは1つのパッケージとして製品販売しています。
本製品とシーケンサで実行ファイルの生成手順の確立と動作確認を行うことができます。

1.1.2 AutoLoader実行ツールの特長

(1) 簡単操作
AutoLoader設定ツールで生成した実行ファイルをマウスによる簡単操作で，設定に基づきPC照合およびPC書込を行います。
PC書込の際はCPUをリモートSTOPし，PC書込が完了したら再びCPUをリモートRUNします。
※ PCパラメータを変更した場合は，手動でCPUをリセットする必要があります。

(2) ロールバック（復元）
PC書込完了後もしくはPC書込途中でエラーが発生した場合に，マウスによる簡単操作で，CPU内のデータをPC書込前の状態に戻すことができるロールバック用実行ファイルを作成します。

(3) アップロード（PC読出）
CPU内のデータと実行ファイルに設定したPC書込前照合用データとの照合結果が不一致の場合に，CPU内のデータを読み出して，ログファイルと共にアップロードデータとして圧縮・保存します。
このアップロードデータは，AutoLoader設定ツールで解凍し，GX Developerのプロジェクトデータとテキスト形式のログファイルに変換することができます。

(4) 実行履歴
AutoLoaderの実行結果をログファイルとして保存します。

AutoLoader実行ツールの各機能の詳細は，AutoLoader実行ツールオペレーティングマニュアル(50EM8740)を参照してください。

ポイント

・AutoLoader実行ツール単体では，実行ファイルの設定内容の確認とアップロードデータの解凍はできません。
・『AutoLoader設定ツール』で作成した実行ファイルは，必ず同じバージョンの『AutoLoader実行ツール』で使用してください。異なるバージョンを誤って使用した時，動作を保証できません。
・CPU内に124本を越えるプログラムがあるときは、下記の理由によりAutoLoaderからダウンロードが実行できません。
CPU内に124本を越えるプログラムがあるときは、CPUからプログラムの読み出しができません。
そのため，ロールバック用実行ファイル・アップロードデータを作成できなくなります。
「現在のプロジェクトに、これ以上プログラムを追加することはできません。不要なプログラムを削除してから再度実行してください。」というメッセージが表示されてダウンロードが実行できなかった場合は，メッセージに従ってGX Developerで不要なプログラムをCPUから削除してください。

1.2 機能一覧

本製品には，次の機能があります。

<table>
<tr><th colspan="3">機　　能</th><th>詳細内容</th><th>参照項</th></tr>
<tr><td rowspan="16">AutoLoader
実行ファイル
の作成</td><td rowspan="4">ファイル</td><td>新規作成</td><td>新規にAutoLoader実行ファイルを作成します。</td><td>――</td></tr>
<tr><td>開く</td><td>既存のAutoLoader実行ファイルから設定内容を読み出します。</td><td rowspan="3">4.3</td></tr>
<tr><td>保存</td><td>AutoLoader実行ファイルを保存します。</td></tr>
<tr><td>上書き保存</td><td>AutoLoader実行ファイルを上書き保存します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">設定</td><td>設定一覧表示</td><td>AutoLoader実行ファイルの設定内容を一覧表示します。</td><td rowspan="3">4.2</td></tr>
<tr><td>設定の追加/削除</td><td>新しい設定の追加と不要な設定の削除ができます。</td></tr>
<tr><td>実行順序の変更</td><td>設定の実行順序を変更します。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">プロジェクト
データの選択</td><td>照合データ選択</td><td>PC照合を行うデータをGX Developerのプロジェクトデータから選択します。</td><td rowspan="2">4.4
4.5
4.6</td></tr>
<tr><td>書込データ選択</td><td>PC書込を行うデータをGX Developerのプロジェクトデータから選択します。</td></tr>
<tr><td>コメント
範囲設定</td><td>PC照合／PC書込を行うコメント範囲を設定します。</td><td>4.7</td></tr>
<tr><td>パラメータ照合
レベル設定</td><td>パラメータの照合レベルを設定します。</td><td>4.8</td></tr>
<tr><td>デバイスメモリ
範囲設定</td><td>PC照合／PC書込を行うデバイスメモリ範囲を設定します。</td><td>4.9</td></tr>
<tr><td>ファイルレジスタ
範囲設定</td><td>PC照合／PC書込を行うファイルレジスタ範囲を設定します。</td><td>4.10</td></tr>
<tr><td>パスワード
解除設定</td><td>PC照合／PC書込時に一時的にCPU保護を解除するパスワードを設定します。</td><td>4.11.1</td></tr>
<tr><td>キーワード
解除設定</td><td>PC照合／PC書込時に一時的にCPU保護を解除するキーワードを設定します。</td><td>4.11.2
4.11.3</td></tr>
<tr><td>RUN中書込
確保ステップ設定</td><td>PCがRUN中に書き込みを行うために確保するステップ数を設定します。</td><td>4.12</td></tr>
<tr><td colspan="2">接続先設定</td><td>対象CPUへの接続経路を設定します。</td><td>4.13</td></tr>
<tr><td colspan="3">アップロードデータの解凍</td><td>アップロードデータを解凍して，GX Developerで確認できるプロジェクトデータとして保存します。</td><td>5</td></tr>
<tr><td colspan="3">ヘルプ</td><td>PDF形式のマニュアルを表示します。</td><td rowspan="2">――</td></tr>
<tr><td colspan="3">製品情報</td><td>製品名，型名，製品バージョンおよび開発元の会社名を表示します。</td></tr>
</table>

＊　製品版/体験版の間での実行ファイルのやり取りはできません。

＊　製品版/体験版の間でのアップロードデータファイルのやり取りはできません。

1.3 サポートするGX Developerのプロジェクトデータ

AutoLoaderは，日本語版 GX Developer Ver.8 以降を用いて作成されたプロジェクトデータをサポートします。
Ver.7以前の GX Developerで作成されたプロジェクトデータは，Ver.8以降のGX Developerで保存し直してからご使用ください。

ポイント

・日本語版以外のGX Developerで作成されたプロジェクトデータ，GX Developerの体験版で作成されたプロジェクトデータ，およびGX Works 2のGX Developer形式での保存で作成されたプロジェクトデータは，いずれもサポートしておりません。
・AutoLoaderがユニバーサルモデルQCPUに対応したので、GX Developer Ver.8.76E以降の使用を推奨します。

1.4 サポートするCPU

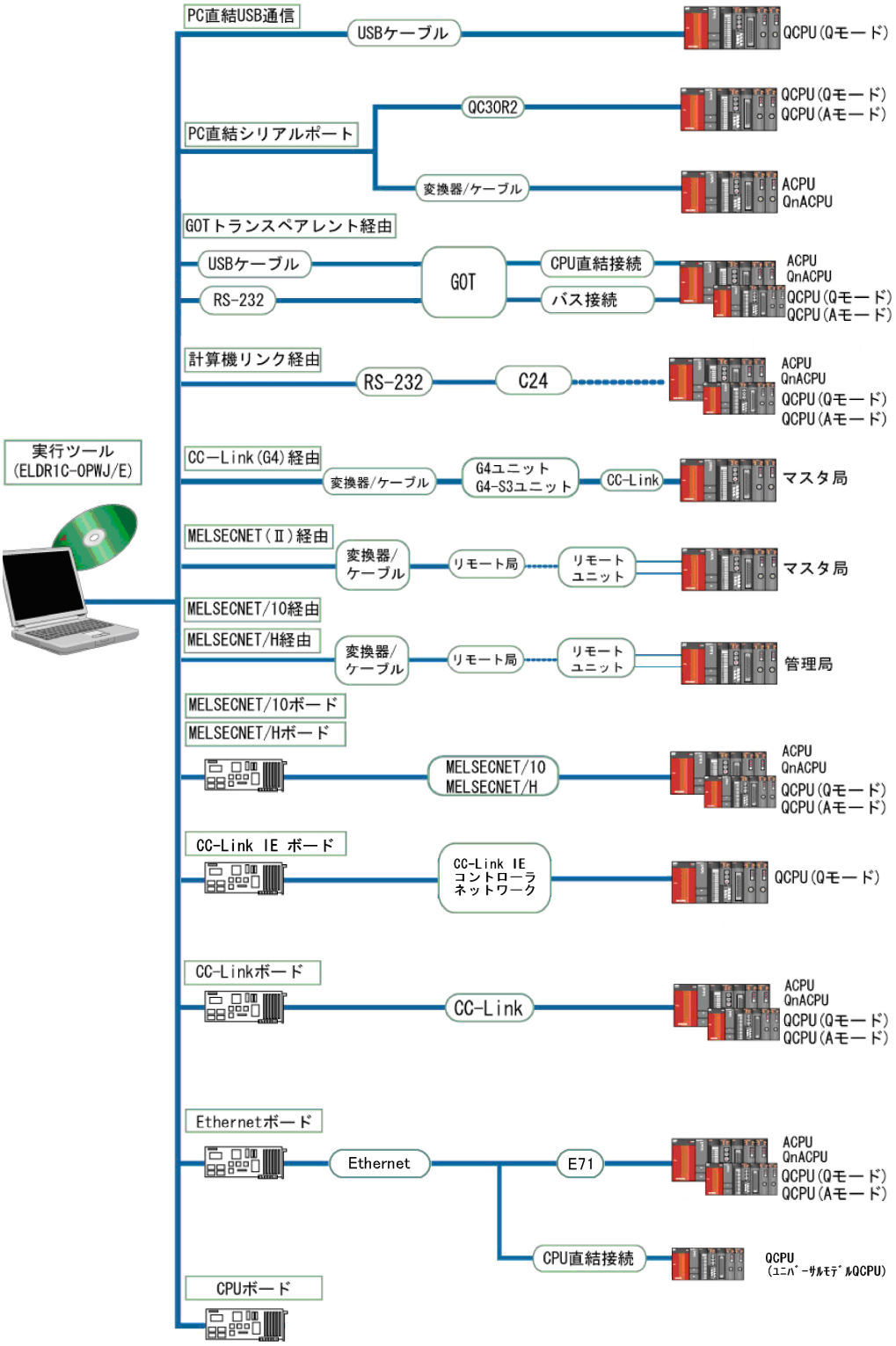
AutoLoaderがサポートするCPUを以下に示します。

シリーズ		形名
MELSEC-Q シリーズ	Qモード (*1)	Q00J，Q00，Q01，Q02，Q02H，Q06H，Q12H，Q25H，Q12PH，Q25PH Q00UJ，Q00U，Q01U，Q02U，Q03UD，Q03UDE， Q04UDH，Q04UDEH，Q06UDH，Q06UDEH，Q10UDH，Q10UDEH， Q13UDH，Q13UDEH，Q20UDH，Q20UDEH，Q26UDH，Q26UDEH
	Aモード	Q02-A，Q02H-A，Q06H-A
MELSEC-QnAシリーズ		Q2A，Q2A-S1，Q2AS，Q2AS-S1，Q2ASH，Q2ASH-S1，Q3A，Q4A
MELSEC-Aシリーズ		A0J2H，A1N，A2N，A2N-S1，A3N，A2C，A2CJ，A1FX，A1SJ，A1SJH，A1S，A1SH， A2S，A2SH，A2A，A2A-S1，A3A，A2U，A2U-S1，A2US，A2US-S1，A2USH-S1， A3U，A4U

*1：Q50UDEH,Q100UDEHには対応していません。(GX Developer Ver.8で対応していないため)

1.5 サポートする接続経路

本ツールのシステム構成を以下に示します。



AutoLoaderで選択可能な接続経路および注意事項は，次頁の接続経路以外，GX Developerと同じです。
詳細は，4章の[制約事項/注意事項]を参照ください。

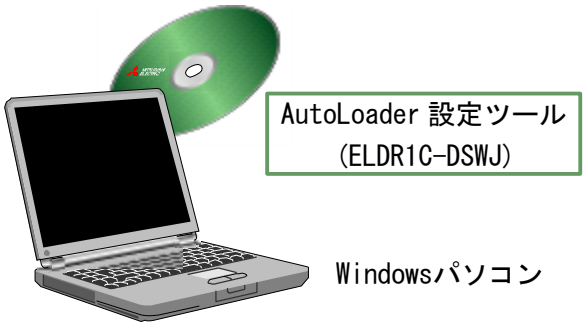
(未サポートの接続経路)

パソコン側インタフェース	対象ユニット
モデム	A6TEL Q6TEL シリアルコミュニケーションユニット
MELSECNET(Ⅱ)ボード	A70BD-J71AP23 A98BD-J71AP23
AFボード	A70BD-AF
パソコンCPUユニット	—
MELSECNET/H リモートI/Oユニット　*1	QJ72LP25 QJ72BR15

*1 リモートI/O局のパラメータ設定のみ未サポートです。
リモートI/O局を経由して他のCPUにアクセスすることは可能です。

2 システム構成

本ツールのシステム構成は次のとおりです。



2.1 製品構成

本ツールの製品構成について説明します。

品名	形名	数量	備考
AutoLoader設定ツールソフトウェア (日本語版)	ELDR1C-DSWJ	1	CD-ROM　1枚に収納 (日本語版のみ)
AutoLoader実行ツールソフトウェア (日本語版)	ELDR1C-OPWJ	1	
AutoLoader設定ツール オペレーティングマニュアル	—	1	・本マニュアル和文（A4サイズ） ・CD-ROM内にPDFで収納
AutoLoader実行ツール オペレーティングマニュアル	—	1	CD-ROM内にPDFで収納
ソフトウェア使用許諾同意書	—	1	—

2.2 動作環境

本ツールの動作環境を以下に示します。

項　目		内　容
コンピュータ本体		下記基本ソフトウェアが動作するパーソナルコンピュータ
	ＣＰＵ	Microsoft® Windows® 2000　Pentium® 133MHz以上 Microsoft® Windows® XP　Pentium® 300MHz以上 Microsoft® Windows® Vista　Pentium® 1GHz以上
	メモリ	Microsoft® Windows® 2000　64MB以上 Microsoft® Windows® XP　128MB以上 Microsoft® Windows® Vista　1GB以上
ハードディスク空き容量		200MB以上　(※1)
ディスクドライブ		CD-ROMディスクドライブ
ディスプレイ		解像度800×600ドット以上　(※2)
通信用インタフェース		RS-232Cポート，USBポート，Ethernetポート
基本ソフトウェア(※3)		Microsoft® Windows® 2000 Professional（日本語版） Microsoft® Windows® XP Professional/Home Edition（日本語版） Microsoft® Windows® Vista Home/Basic,Home/Premium/Ultimate/Business/Enterprise　（日本語版）

※1　Microsoft® Windows® Vista 使用時は，最低15GBの空き容量が必要である。
※2　Microsoft® Windows® Vista 使用時は，解像度1024×768ドット以上を推奨。
※3　Microsoft® Windows® XP/Vista 使用時は，以下の制約がある。
①交互モードへは対応しない。
②ユーザの簡易切り替え機能への対応はしない。
③大きいフォントへは対応しない。
④リモートディスクトップへの対応はしない。

ポイント

パソコンのレジューム機能，サスペンド設定，省電力設定，スタンバイモードを設定した状態でAutoLoader実行ファイルを実行すると，交信エラーを発生することがあります。実行の際には，上記の設定を解除してから行ってください。

3　インストール・アンインストール

3.1　インストール

設定ツールおよび実行ツールのインストールは，次の手順で行ってください。

次ページへ

1. インストーラの起動

(1) コントロールパネルからインストールする場合

(a) コントロールパネルの“プログラムの追加と削除”を実行します。

(b) “プログラムの追加”を選択します。

(c) インストールCDを挿入して，“CDまたはフロッピー”を選びます。

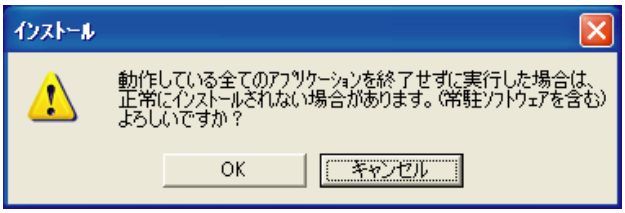
コントロールパネルは[スタートメニュー]-[すべてのプログラム]-[コントロールパネル]の順に選択します。

※使用する基本ソフトウェア，およびその設定内容によりコントロールパネルの表示は異なります。(Windows® Vista使用時は、コントロールパネルからはインストールできません。(2)の方法でインストールしてください。)

(2) 直接インストーラを起動する場合

インストールCD-ROMの“SETUP.EXE”を実行します。

前ページから



2. インストーラが起動すると左記の画面が表示されますので，すべてのアプリケーションが終了していることを確認して OK ボタンをクリックします。
他のアプリケーションが動作している場合は，全て終了してください。

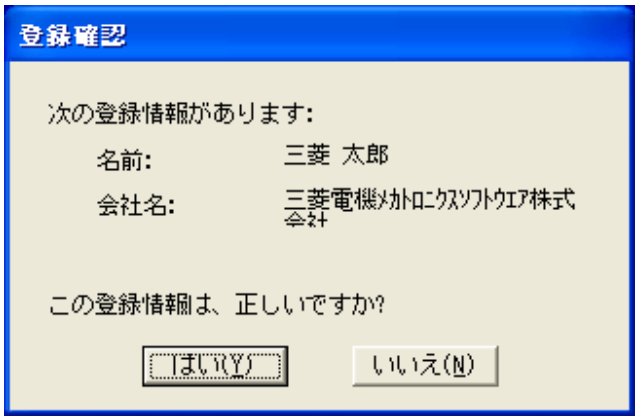
左記画面が表示された場合、本製品CD-ROM内の"EnvMSWS"フォルダ内にあるSETUP.EXEを実行してください。作業が終了したら、再度インストールを行ってください。

3. 内容を確認して 次へ(N) > ボタンをクリックします。

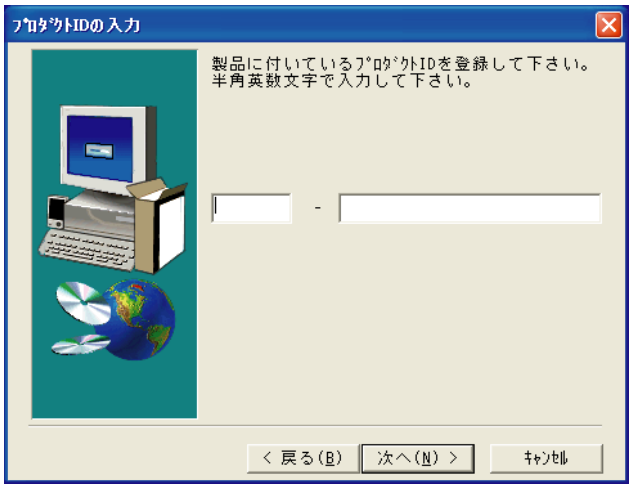
4. 名前と会社名を入力して 次へ(N) > ボタンをクリックします。

次ページへ

前ページから



5. 登録された名前と会社名を確認します。正しければはい(Y)ボタンをクリックします。
変更する場合はいいえ(N)ボタンをクリックします。

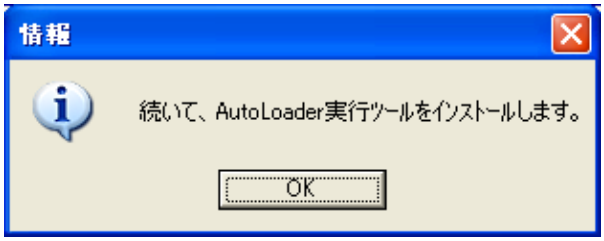


6. 製品のプロダクトIDを入力し，次へ(N) >ボタンをクリックします。
プロダクトIDは，本製品に同梱されている「ソフトウェア使用許諾同意書」に記載されています。

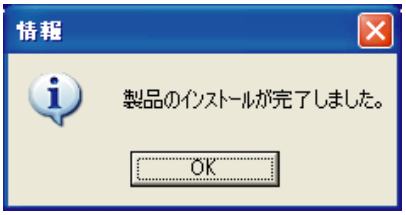
7. インストール先フォルダを指定します。既定のインストール先フォルダを表示しますので，よろしければ次へ(N) >ボタンをクリックします。
変更する場合は参照(R)...ボタンをクリックし，変更するドライブとフォルダを指定します。

次ページへ

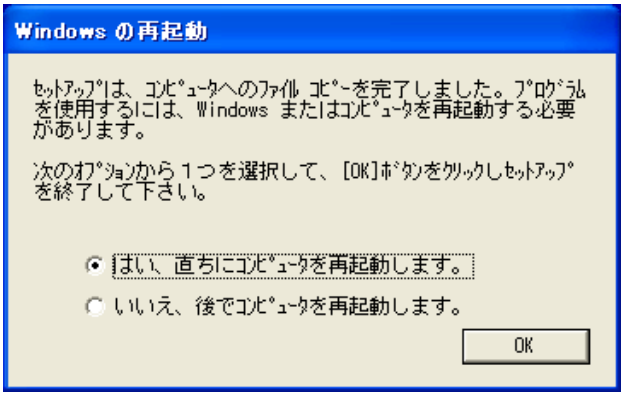
前ページから



8. 設定ツールのインストール後，左記の画面が表示されます。OKボタンをクリックして，設定ツールと同様に実行ツールのインストールを行ってください。



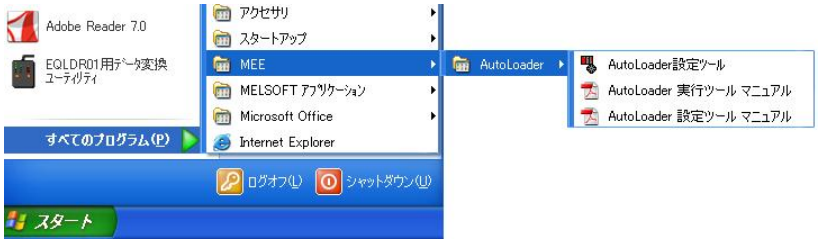
9. 左記の画面が表示されるので，OKボタンをクリックしてください。



10. 左記のようなWindows®の再起動を促す画面が表示される場合があります。

再起動する場合は
「はい，直ちにコンピュータを再起動します。」を選択してOKボタンをクリックします。

あとから再起動する場合は
「いいえ，後でコンピュータを再起動します。」を選択してOKボタンをクリックします。



11. AutoLoaderをインストールすると[スタート]→[すべてのプログラム]→[MEE]→[AutoLoader]にアイコンが登録されます。

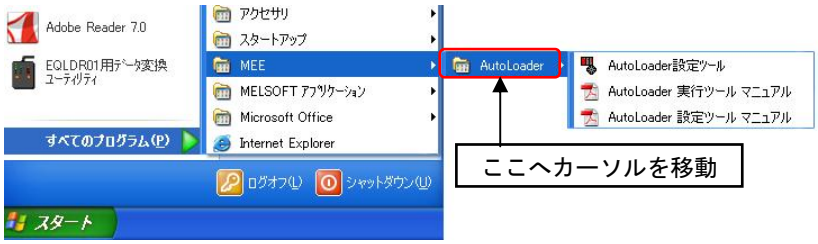
【備考】
Windows®2000 Professional使用時は，[スタート]→[プログラム]→[MEE]→[AutoLoader]にアイコンが登録されます。

ポイント

- インストールする際には，Administrator権限のあるユーザでインストールして下さい。
  Administrator権限のないユーザでは，インストールできません。
- AutoLoaderが既にインストールされているパソコンには，上書きインストールを行わないでください。
- AutoLoaderが既にインストールされているパソコンに，三菱電機製MELSECボード対応アプリケーションやGX Developerをインストールすると，通信エラーやデバイス番号エラーなどが発生することがあります。
  これらの現象が発生した場合は，AutoLoaderを一度アンインストールしてから，再インストールしてください。
- インストール開始時に「本パッケージが動作可能な環境になっておりません」というメッセージが表示された場合，CD-ROMの“EnvMSWS”フォルダ内にある“SETUP.EXE”を実行した後に，AutoLoaderのインストールを実行してください。

3.2　アプリケーションの起動確認

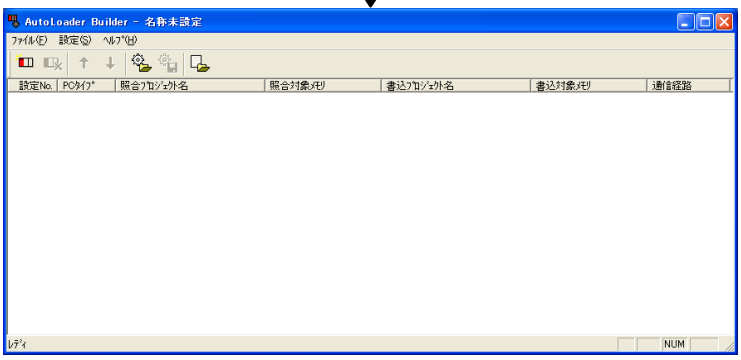
設定ツールの起動確認は次の手順で行ってください。



1. ［スタート］をクリックし，［すべてのプログラム］-［MEE］→［AutoLoader］メニューへカーソルを移動します

【備考】
Windows®2000 Professional使用時は，［すべてのプログラム］が［プログラム］と表示されます。

2. ［AutoLoader設定ツール］メニューをクリックします。



3. AutoLoaderが起動します。左記の画面が表示されれば，正常にインストールされています。

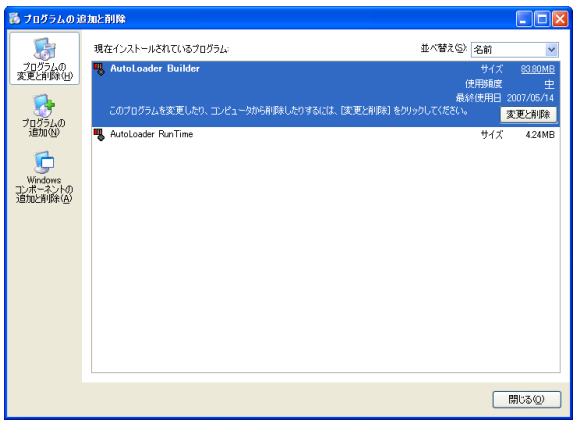
3.3　アンインストール

本ツールのアンインストールは，次の手順で行ってください。

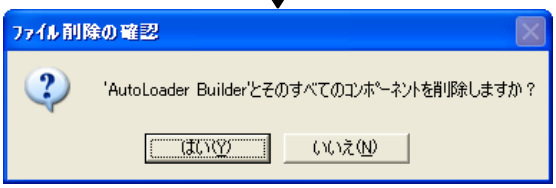
1. コントロールパネルの“プログラムの追加と削除”を実行します。

コントロールパネルは[スタートメニュー]-[すべてのプログラム]-[コントロールパネル]の順に選択します。

※使用する基本ソフトウェア，およびその設定内容によりコントロールパネルの表示は異なります。



2. 削除するソフトウェアパッケージ“AutoLoader Builder”を選択します。選択後，変更と削除ボタンをクリックします。

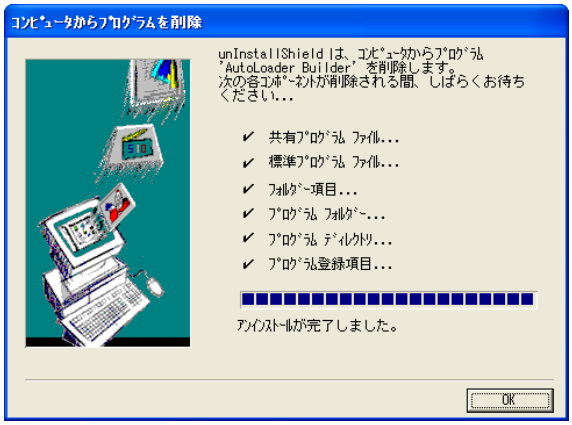


3. ソフトウェアパッケージの削除の確認をします。アンインストールを行う場合ははい(Y)ボタンをクリックします。
アンインストールを中止する場合はいいえ(N)ボタンをクリックし，前の画面に戻ります。

※コンポーネントとは，インストールしたアイコンとファイルを示します。

次ページへ

前ページから



4. 削除作業が終了したメッセージが出ましたら
OK ボタンをクリックします。

以上でアンインストール作業は完了です。

ポイント

AutoLoaderをアンインストールした際に，スタートメニューに項目が残る場合は，パソコンを再起動してください。

4 AutoLoader実行ファイルの作成

AutoLoader実行ファイルの作成手順ならびに各設定内容について説明します。

4.1 AutoLoader実行ファイルの作成手順

(1) 新規作成の場合

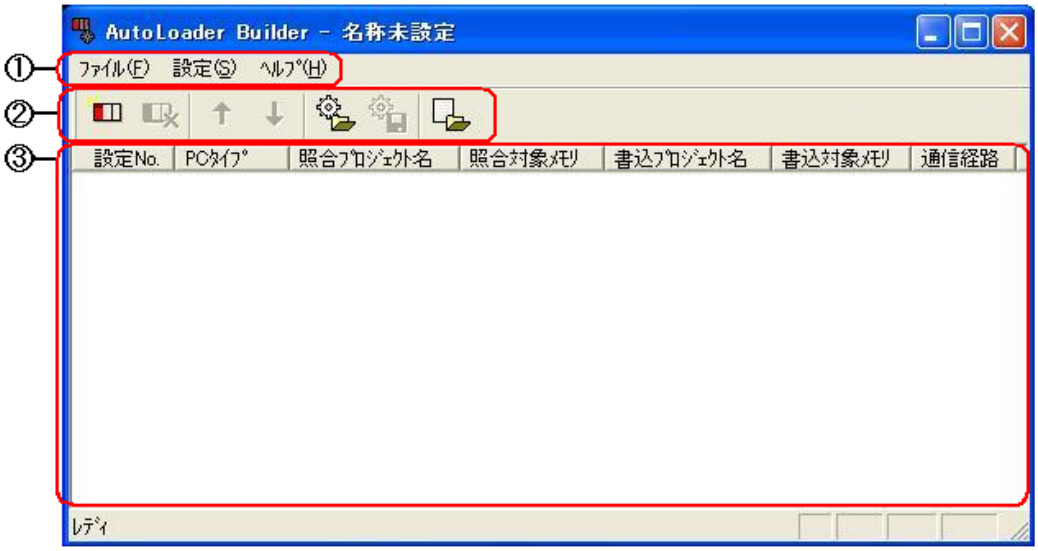
操　作　手　順	設定ダイアログの表示条件	参照項
アプリケーションの起動		3.2
設定追加		4.2
PC照合（PC書込前照合）		4.4
しない　する		
PC照合プロジェクトの選択		4.5
PC照合データの選択		4.6
コメント範囲の設定	デバイスコメント選択時 注）ACPU, QCPU（Aモード）は非表示	4.7
パラメータ照合レベルの設定	対象CPUがQnACPU, QCPU（Qモード）	4.8
デバイスメモリ範囲の設定	デバイスメモリ選択時	4.9
ファイルレジスタ範囲の設定	ファイルレジスタ選択時	4.10
パスワード/キーワード解除の設定		4.11
PC書込		4.4
しない　する		
PC書込プロジェクトの選択		4.5
PC書込データの選択		4.6
RUN中書込確保ステップの設定	対象CPUがQnACPU, QCPU（Qモード）	4.12
コメント範囲の設定	デバイスコメント選択時 注）ACPU, QCPU（Aモード）は非表示	4.7
デバイスメモリ範囲の設定	デバイスメモリ選択時	4.9
ファイルレジスタ範囲の設定	ファイルレジスタ選択時	4.10
パスワード/キーワード解除の設定		4.11
接続先指定		4.13
設定を追加するか		4.2
する　しない		
AutoLoader実行ファイルの保存		4.3
アプリケーション終了		4.2

(2) 設定内容変更の場合

操　作　手　順	設定ダイアログの表示条件	参照項
アプリケーションの起動		3.2
実行ファイルの読出し		4.3
設定の削除		4.2
変更する設定の選択・設定の追加		4.3
PC照合（PC書込前照合）		4.4
しない　する		
PC照合プロジェクトの選択		4.5
PC照合データの選択		4.6
コメント範囲の設定	デバイスコメント選択時 注）ACPU, QCPU（Aモード）は非表示	4.7
パラメータ照合レベルの設定	対象CPUがQnACPU, QCPU（Qモード）	4.8
デバイスメモリ範囲の設定	デバイスメモリ選択時	4.9
ファイルレジスタ範囲の設定	ファイルレジスタ選択時	4.10
パスワード/キーワード解除の設定		4.11
PC書込		4.4
しない　する		
PC書込プロジェクトの選択		4.5
PC書込データの選択		4.6
RUN中書込確保ステップの設定	対象CPUがQnACPU, QCPU（Qモード）	4.12
コメント範囲の設定	デバイスコメント選択時 注）ACPU, QCPU（Aモード）は非表示	4.7
デバイスメモリ範囲の設定	デバイスメモリ選択時	4.9
ファイルレジスタ範囲の設定	ファイルレジスタ選択時	4.10
パスワード/キーワード解除の設定		4.11
接続先指定		4.13
他の設定を修正，追加するか		4.2
する　しない		
AutoLoader実行ファイルの保存		4.3
アプリケーション終了		4.2

4.2 メインウィンドウ

設定ツール起動時に最初に表示される画面です。
AutoLoader実行ファイルの作成，変更，PC照合/書込プロジェクトの追加，削除などの各機能を実行します。



［画面説明］
(1) メニュー・ツールバー

①メニュー	サブメニュー	②ツールバー	機　　能
ファイル(F)	新規作成(N)	－	AutoLoader実行ファイルを新規に作成します。
	開く(O)		既存のAutoLoader実行ファイルを開きます。　注1)
	上書き保存(S)		既存のAutoLoader実行ファイルに上書き保存します。
	名前を付けて保存(A)	－	開いているAutoLoader実行ファイルに新たに名前を付けて保存します。
	解凍(M)		アップロードデータファイルを解凍します。
	終了(X)	－	アプリケーションを終了します。
設定(S)	追加(A)		PC照合/書込設定を追加します。最大64台の設定が可能です。
	削除(D)		PC照合/書込設定を削除します。
	前に移動(R)		設定一覧中の選択行をひとつ前に移動します。
	後に移動(F)		設定一覧中の選択行をひとつ後に移動します。
ヘルプ(H)	設定ツールのヘルプ(H)	－	設定ツールのマニュアルを表示します。　注2)
	実行ツールのヘルプ(O)	－	実行ツールのマニュアルを表示します。　注2)
	製品情報(A)	－	製品情報を表示します。

注1) ロールバック用実行ファイルは開けません。
注2) AcrobatReaderがインストールされていない場合，マニュアルを表示することはできません。

(2) 設定一覧

現在開いている，実行ファイルに設定する内容の一覧を表示します。
選択した行をダブルクリック，またはカーソルで行を選択した後に「Enter」キーを押すと，PC照合/PC書込および接続経路設定を表示します。
行の選択は，マウスのクリック，カーソル移動(↑，↓キー)で行うことができます。

③ 設定項目	内　　容
設定No.	設定順位を表示します。最大64台分の設定が追加できます。
PCタイプ	選択したプロジェクトに設定されているPCタイプを表示します。
照合プロジェクト名	PC照合するプロジェクト名を表示します。注1)
照合対象メモリ	PC照合する対象メモリを表示します。
書込プロジェクト名	PC書込するプロジェクト名を表示します。注1)
書込対象メモリ	PC書込する対象メモリを表示します。
通信経路	接続経路を表示します。

注1) 空白の場合，PC照合またはPC書込は行いません。

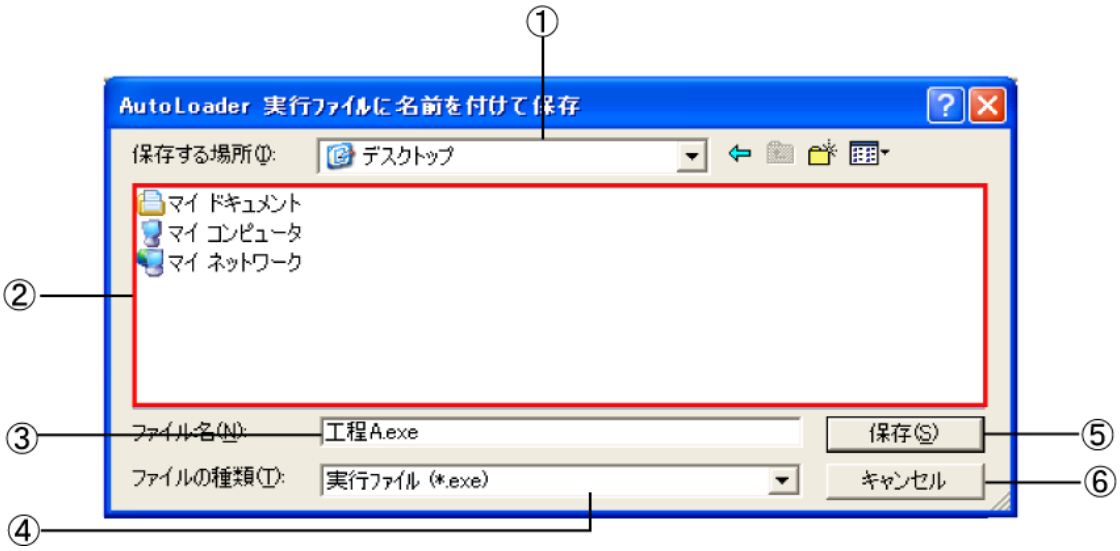
4.3 AutoLoader実行ファイルの読出・保存

(1) 保存したAutoLoader実行ファイルを開きます。

[画面説明]

No.	名称	内容
①	ファイルの場所(I)	現在開いているファイルの場所を表示します。
②	ファイル一覧	現在開いているファイルの場所のファイル一覧を表示します。
③	ファイル名(N)	選択したファイル名を表示します。
④	ファイルの種類(T)	ファイル一覧に表示するファイルの種類を選択します。 AutoLoader実行ファイルは，「実行ファイル(*. exe)」を選択します。
⑤	開く(O)	指定したAutoLoader実行ファイルを開きます。
⑥	キャンセル	処理をキャンセルして，メインウィンドウに戻ります。

(2) AutoLoader実行ファイルに名前を付けて保存します。

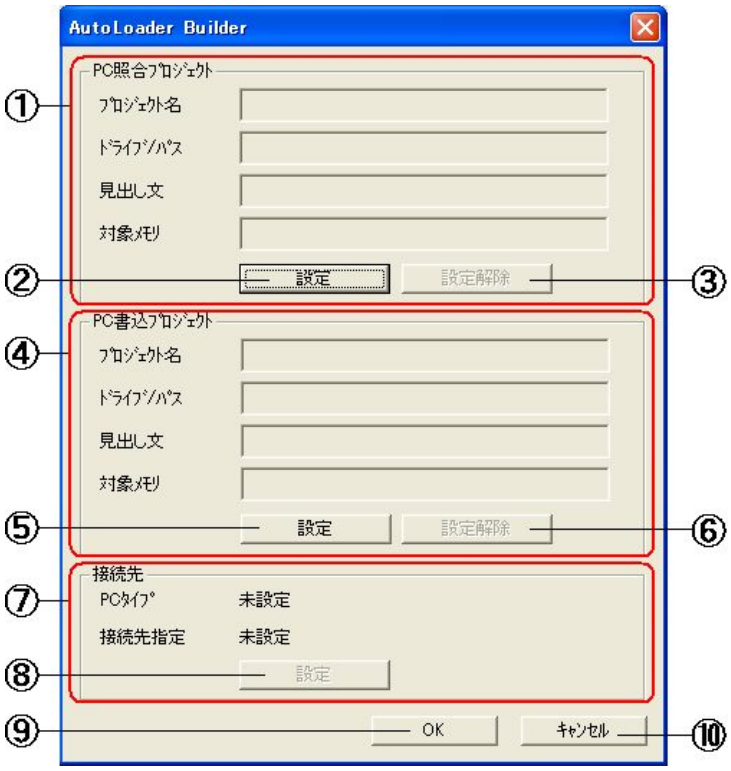


［画面説明］

No.	名称	内容
①	保存する場所(I)	現在開いているファイルの場所を表示します。
②	ファイル一覧	現在開いているファイルの場所のファイル一覧を表示します。
③	ファイル名(N)	ファイル名を入力します。
④	ファイルの種類(T)	ファイル一覧に表示するファイルの種類を選択します。 AutoLoader実行ファイルは，「実行ファイル(*.exe)」を選択します。
⑤	保存(S)	指定した実行ファイル名で保存します。
⑥	キャンセル	処理をキャンセルして，メインウィンドウに戻ります。

4.4 PC照合/書込プロジェクトおよび接続経路の設定

AutoLoader実行ファイルに設定するPC照合/書込プロジェクトの選択，変更，および接続経路を選択します。

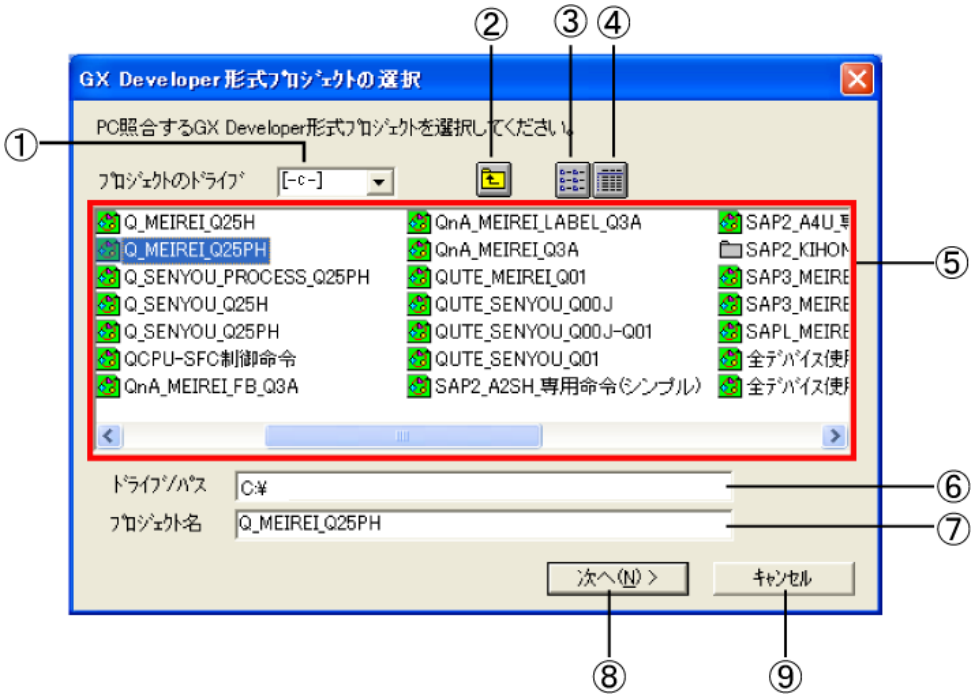


［画面説明］

No.	名称		内容
①	PC照合プロジェクト		PC照合を行うプロジェクト名，データ格納先ドライブとパス，見出し文および対象メモリを表示します。
②		設定	PC照合を行うプロジェクトデータの選択に進みます。
③		設定解除	PC照合を行うプロジェクトデータをクリアします。
④	PC書込プロジェクト		PC書込を行うプロジェクト名，データ格納先ドライブとパス，見出し文および対象メモリを表示します。
⑤		設定	PC書込を行うプロジェクトデータの選択に進みます。
⑥		設定解除	PC書込を行うプロジェクトデータをクリアします。
⑦	接続先		接続先のPCタイプと接続経路を表示します。
⑧		設定	接続先指定に進みます。
⑨	ＯＫ		設定を確定してメインウィンドウに戻ります。
⑩	キャンセル		設定をクリアしてメインウィンドウに戻ります。

4.5 PC照合/書込プロジェクトの選択

PC照合/書込の対象となるGX Developerのプロジェクトを選択します。

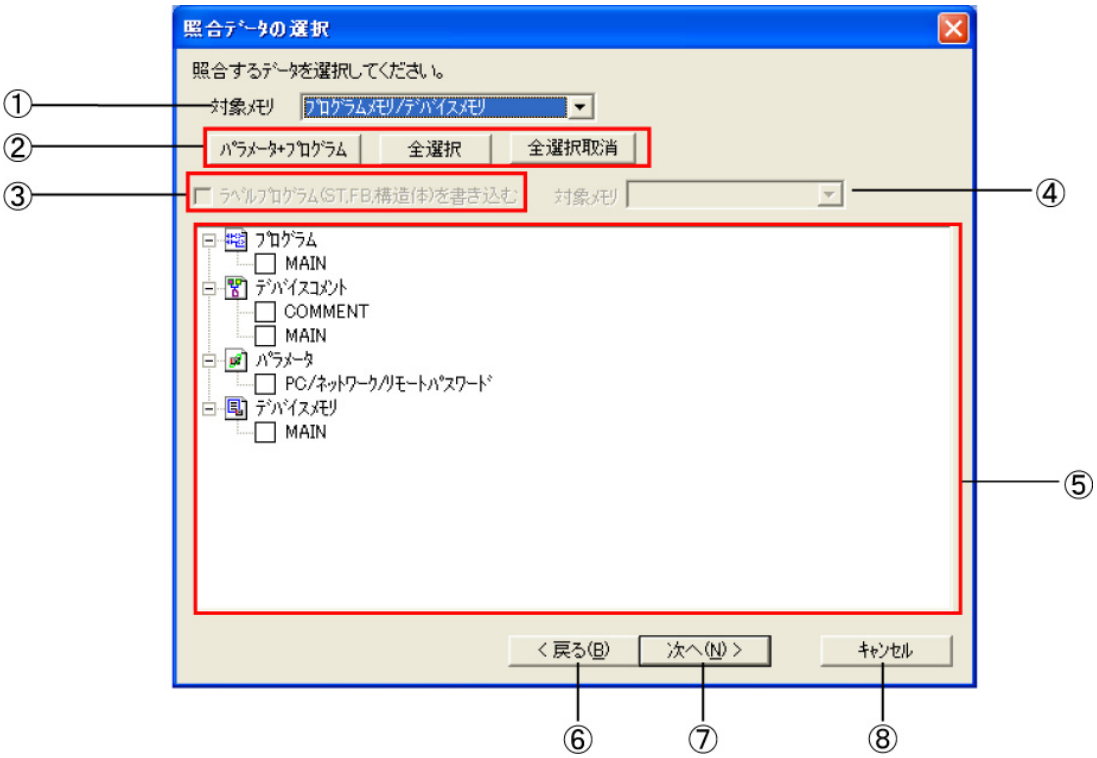


[画面説明]

No.	名称	内容
①	プロジェクトのドライブ	プロジェクト選択対象のドライブを選択します。 ドライブを変更すると，プロジェクト一覧表示が更新されます。
②	上位ディレクトリに移動	一覧表示するパスを上位ディレクトリに移動します。
③	アイコン表示	プロジェクト一覧表示をアイコン表示に切り替えます。
④	詳細表示	プロジェクト一覧表示を詳細表示に切り替えます。
⑤	プロジェクト一覧表示	現在選択しているドライブ/パス内のGX Developer形式プロジェクトとフォルダを一覧表示します。 フォルダをダブルクリックすると，そのフォルダにパスを変更します。 GX Developer形式プロジェクトをダブルクリックすると，PC照合/書込対象プロジェクトに確定して「次へ」進みます。
⑥	ドライブ/パス	現在選択しているドライブ/パスを表示します。
⑦	プロジェクト名	現在選択しているGX Developerプロジェクト名を表示します。
⑧	次へ(N)	現在選択しているプロジェクトをPC照合/書込対象プロジェクトに確定して，次の画面に進みます。
⑨	キャンセル	処理をキャンセルしてPC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

4.6 PC照合/書込データの選択

PC照合/書込の対象となるGX Developerプロジェクト内のデータを選択します。



[画面説明]

No.	名称	内容
①	対象メモリ	PC書込/PC照合の対象メモリを選択します。 PC照合/書込の対象PCシリーズ，動作によって選択可能なメモリは以下のようになります。

PCシリーズ	選択可能な対象メモリ	PC照合	PC書込
QCPU (Qモード)	プログラムメモリ/デバイスメモリ	○	○
	メモリカード(RAM)	○	○
	メモリカード(ROM)	○	○
	プログラムメモリ->メモリカード(ROM) (ROM転送)	×	○*1
	標準RAM	○	○
	標準ROM	○	下表
	プログラムメモリ->標準ROM(ROM転送)	×	下表
QnACPU	内蔵RAM/デバイスメモリ	○	○
	ICメモリカード A(RAM)	○	○
	ICメモリカードA(ROM)	○	○
	ICメモリカードB(RAM)	○	○
	ICメモリカードB(ROM)	○	○
APU	プログラムメモリ	○	○

○：選択可　×：選択不可

QCPU(Qモード)　モデル別選択可能なメモリ

選択可能な対象メモリ	ベーシック ハイパフォーマンス プロセスCPU	ユニバーサル
標準ROM	×	○
プログラムメモリ->標準ROM(ROM転送)	○*1	×

○：選択可　×：選択不可

<table>
<tr><th>No.</th><th>名称</th><th>内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">②</td><td>パラメータ+プログラム</td><td>パラメータとプログラムを選択します。*3</td></tr>
<tr><td>全選択</td><td>全てのデータを選択します。</td></tr>
<tr><td>全選択取消</td><td>全てのデータの選択を解除します。</td></tr>
<tr><td>③</td><td>ラベルプログラム
(ST,FB,構造体)を
書き込む</td><td>ラベルプログラムのPC書込を選択します。
選択したGX Developerプロジェクトがラベルプログラムの場合に有効となります。</td></tr>
<tr><td>④</td><td>対象メモリ</td><td>ラベルプログラムの書込対象メモリを選択します。
選択したGX Developerプロジェクトがラベルプログラムの場合に有効となります。
<table>
<tr><th>PCシリーズ</th><th>選択可能なメモリ</th></tr>
<tr><td>QCPU
(Qモード)</td><td>プログラムメモリ／デバイスメモリ
メモリカード(RAM)
メモリカード(ROM)　*2</td></tr>
<tr><td>QnACPU</td><td>内蔵RAM/デバイスメモリ
ICメモリカードA(RAM)
ICメモリカードA(ROM)
ICメモリカードB(RAM)
ICメモリカードB(ROM)</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>データ一覧</td><td>PC照合/書込対象のプロジェクト内のデータを選択します。
選択可能なデータ種別は，次表に示します。</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>戻る(B)</td><td>プロジェクト選択に戻ります。</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>次へ(N)</td><td>PC照合/書込を行うデータを確定して次の画面に進みます。</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>キャンセル</td><td>処理をキャンセルしてPC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。</td></tr>
</table>

［ROM転送についての注意事項］

*1 ROM転送する場合は，全ての必要なデータを選択してください。
「プログラムメモリ->メモリカード(ROM)(ROM転送)」または「プログラムメモリ->標準ROM(ROM転送)」は一度データをプログラムメモリに書き込んだ後，CPUのROM転送機能を使用して対象メモリにデータを書き込みます。
その際,PC書込前にプログラムメモリのメモリフォーマットやメモリクリアは行いませんので，ここで選択していないデータがプログラムメモリ内に存在すると，そのデータをROM転送することになります。

*2 ラベルプログラムをPC書込するとき，ラベルプログラム書込対象メモリが「プログラムメモリ/デバイスメモリ」であっても，PC書込の対象メモリが「プログラムメモリ->メモリカード(ROM)(ROM転送)」または「プログラムメモリ->標準ROM(ROM転送)」であった場合は，ラベルプログラムはそれぞれメモリカード(ROM)または標準ROMに書き込まれます。

［パラメータ有効ドライブの優先順位］

*3 ユニバーサルモデルQCPUで有効になるパラメータは，パラメータが格納されているドライブ（メモリ）の優先順位で決まります。
有効にしたいパラメータを優先順位の高いドライブに書き込んでください。

<table>
<tr><th colspan="2">優先順位</th><th>パラメータ格納ドライブ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">高
↑
↓
低</td><td>1</td><td>ドライブ０（プログラムメモリ）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ドライブ１（メモリカードＲＡＭ）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ドライブ２（メモリカードＲＯＭ）</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ドライブ３（標準ＲＯＭ）</td></tr>
</table>

[選択可能なデータ種別]

PCシリーズ	動作	対象メモリ	選択可能データ						
			プログラム	デバイスコメント	パラメータ	デバイスメモリ	デバイス初期値	ファイルレジスタ	インテリジェント機能ユニットパラメータ
CPU (Qモード)	PC照合	プログラムメモリ／デバイスメモリ	○	○	○	○	×	×	×
		メモリカード(RAM) <Q00J,Q00,Q01は除く>	○	○	○	○	×	×	×
		メモリカード(ROM) <Q00J,Q00,Q01は除く>	○	○	○	○	×	×	×
		標準RAM <Q00Jは除く>	×	×	×	×	×	○	×
		標準ROM	○	○	○	×	×	×	×
	PC書込	プログラムメモリ／デバイスメモリ	○	○	○	○	○	×	○
		メモリカード(RAM) <Q00J,Q00,Q01は除く>	○	○	○	×	○	○	○
		メモリカード(ROM) <Q00J,Q00,Q01は除く>	○	○	○	×	○	○	○
		標準RAM <Q00Jは除く>	×	×	×	×	×	○	×
		プログラムメモリ->メモリカード(ROM)(ROM転送)	○	○	○	○	○	×	○
		プログラムメモリ->標準ROM(ROM転送) (ユニバーサルモデルを除く)	○	○	○	○	○	×	○
		標準ROM(ユニバーサルモデルのみ)	○	○	○	○	○	×	○
QnACPU	PC照合	内蔵RAM/デバイスメモリ	○	○	○	○	×	×	—
		ICメモリカードA(RAM)	○	○	○	×	×	○	—
		ICメモリカードA(ROM)	○	○	○	×	×	○	—
		ICメモリカードB(RAM)	○	○	○	×	×	○	—
		ICメモリカードB(ROM)	○	○	○	×	×	○	—
	PC書込	内蔵RAM/デバイスメモリ	○	○	○	○	○	×	—
		ICメモリカードA(RAM)	○	○	○	×	○	○	—
		ICメモリカードA(ROM)	○	○	○	×	○	○	—
		ICメモリカードB(RAM)	○	○	○	×	○	○	—
		ICメモリカードB(ROM)	○	○	○	×	○	○	—
ACPU, QCPU (Aモード)	PC照合	内臓メモリ (固定)	○	○	○	○	—	○	—
	PC書込	内臓メモリ (固定)	○	○	○	○	—	○	—

○：選択可　×：選択不可　—：機能未搭載

ポイント

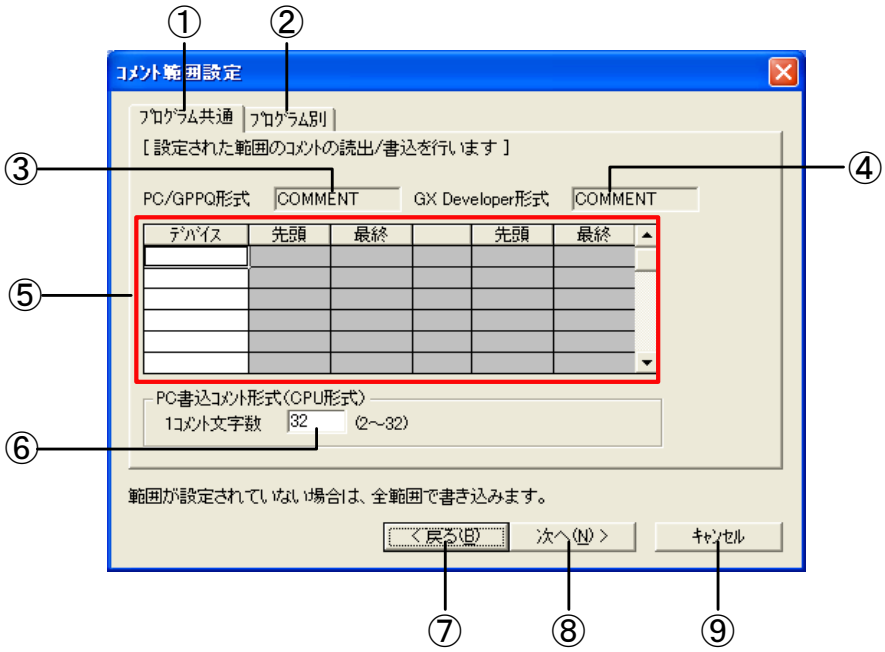
- デバイスメモリをPC書込する際には，すでにCPUに書き込まれているPCパラメータのデバイス設定範囲と書き込むデバイスメモリの設定範囲が一致している必要があります。不一致の場合はエラーとなりますので，正しいデバイス範囲を設定したPCパラメータをPC書込した後に，CPUをリセットしてから再度デバイスメモリをPC書込してください。
- デバイス初期値を使用する場合，ダウンロードまたはロールバックを実行するとCPU本体のERR LEDが点滅することがあります。しかし，書込データに問題はございませんので、CPUをリセットしてご使用ください。

4.7 コメント範囲設定

4.7.1 コメント範囲設定(QCPU/QnACPU)

PC照合/PC書込を行うデバイスコメントの範囲を設定します。
この設定は，プロジェクトデータのデバイスコメントを選択した場合に表示されます。
デバイスコメントには，プログラム共通コメントとプログラム別コメントの２種類があり，
それぞれのデバイス範囲が設定できます。

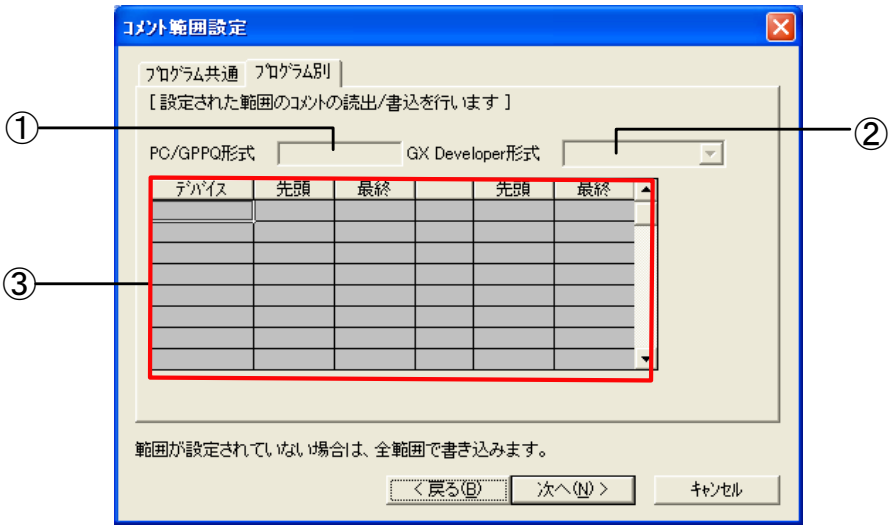
(1) プログラム共通コメント範囲設定



[画面説明]

No.	名称	内容
①	プログラム共通	プログラム共通コメントの範囲設定の内容を表示します。
②	プログラム別	プログラム別コメントの範囲設定の内容を表示します。
③	PC/GPPQ形式コメント名	プログラム共通コメントは「COMMENT」に固定。
④	GX Developer形式コメント名	プログラム共通コメントは「COMMENT」に固定。
⑤	デバイス範囲設定	PC照合/書込を行うプログラム共通コメントのデバイスとその範囲を設定します。設定可能なデバイスは次のとおりです。 M, SM, L, F, V, X, Y, B, SB, D, SD, R, ZR, W, SW, T, C, ST, P, I, U, J, BL, Un¥G, Jn¥X, Jn¥Y, Jn¥B, Jn¥SB, Jn¥W, Jn¥SW, BLn¥S, BLn¥TR 設定可能なデバイス範囲は，選択したプロジェクトに設定されているパラメータのデバイス範囲となります。
⑥	PC書込コメント文字数	PC書込時のコメントの文字数を設定します。 設定可能範囲は2～32です。
⑦	戻る(B)	設定をキャンセルして前の画面に戻ります。
⑧	次へ (N)	PC照合/書込コメント範囲設定を確定して，次の画面に進みます。
⑨	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

(2) プログラム別コメント範囲設定



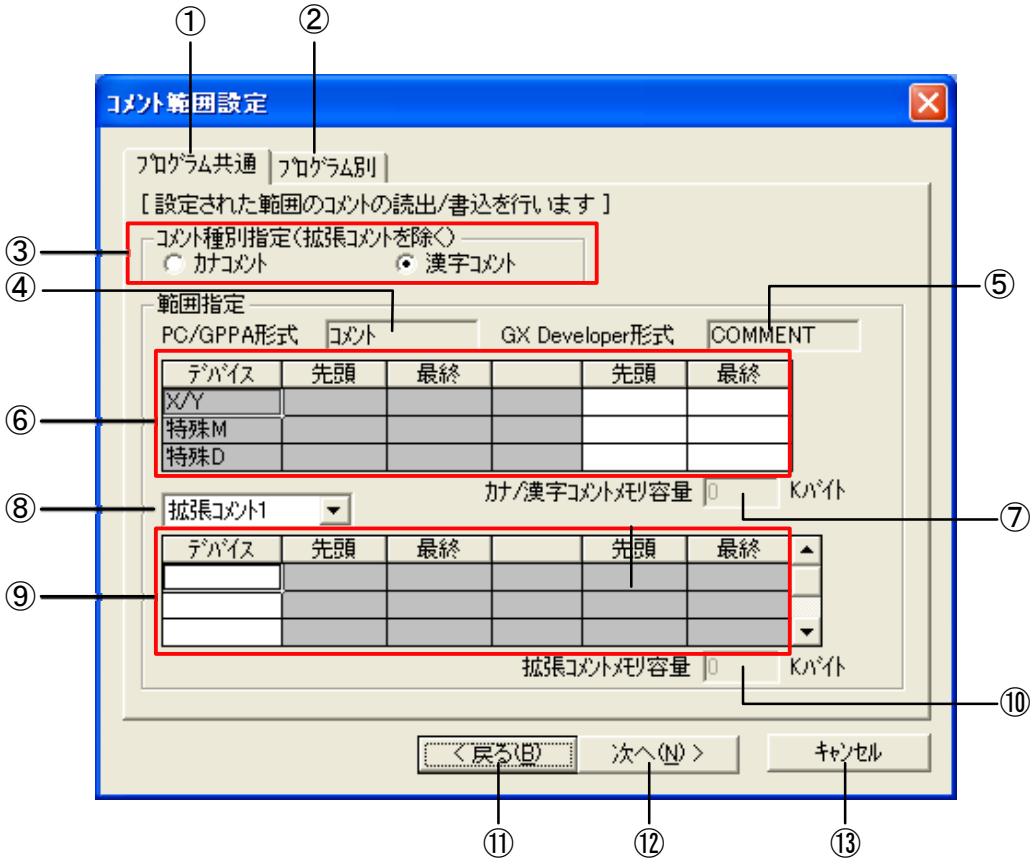
[画面説明]

No.	名称	内容
①	PC/GPPQ形式コメント名	GPPQ形式で書込側のデータ名を設定します。
②	GX Developer形式コメント名	PC照合/PC書込対象とするGX Developer形式プログラム別コメント名を選択します。 プロジェクトデータの選択時に指定したプログラム別コメントがリスト表示されます。
③	デバイス範囲設定	PC照合/書込を行うプログラム別コメントのデバイスとその範囲設定します。設定可能なデバイスは次のとおりです。 M, SM, L, F, V, X, Y, B, SB, D, SD, R, ZR, W, SW, T, C, ST, P, I, U, J, BL, Un¥G, Jn¥X, Jn¥Y, Jn¥B, Jn¥SB, Jn¥W, Jn¥SW, BLn¥S, BLn¥TR 設定可能なデバイス範囲は，選択したプロジェクトに設定されているパラメータのデバイス範囲となります。

4.7.2 コメント範囲設定(ACPU)

PC照合/PC書込を行うデバイスコメントの範囲を設定します。
この設定は，プロジェクトデータのデバイスコメントを選択した場合に表示されます。
デバイスコメントには，プログラム共通コメントとプログラム別コメントの２種類があり，
それぞれのデバイス範囲が設定できます。

(1) プログラム共通コメント範囲設定

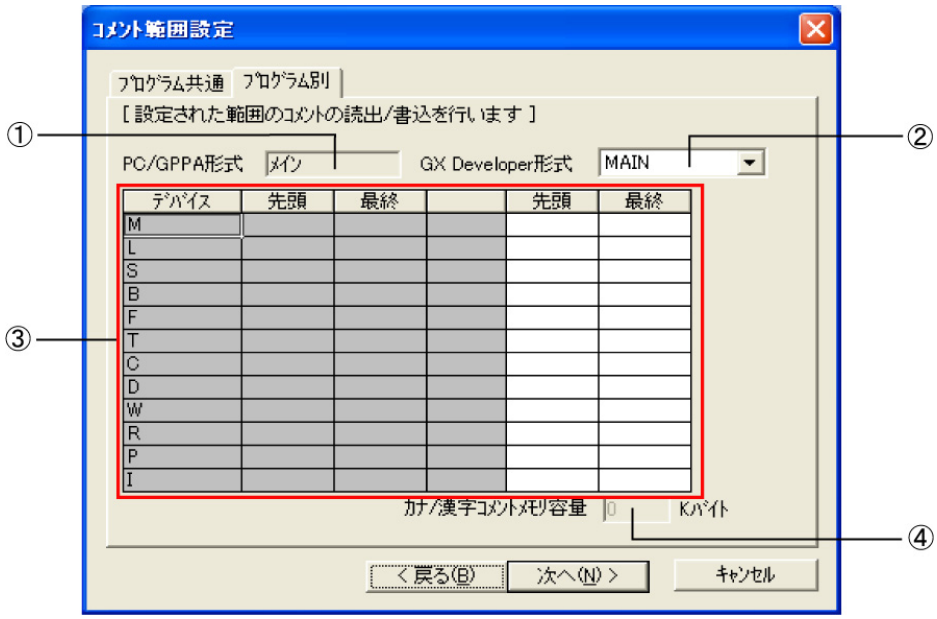


[画面説明]

No.	名称	内容
①	プログラム共通	プログラム共通コメントの範囲設定の内容を表示します。
②	プログラム別	プログラム別コメントの範囲設定の内容を表示します。
③	コメント種別	カナ/漢字コメントを指定します。
④	PC/GPPA形式コメント名	プログラム共通コメントは「コメント」に固定。
⑤	GX Developer形式コメント名	プログラム共通コメントは「COMMENT」に固定。
⑥	デバイス範囲設定	PC照合/書込を行うプログラム共通コメントのデバイス範囲を設定します。設定可能なデバイス範囲は，そのCPUが持つ各デバイスの最大値となります。(ただし，X/Yデバイスは除く)
⑦	カナ/漢字コメントメモリ容量	カナ/漢字コメントメモリ容量を表示します。
⑧	拡張コメントの選択	PC照合/書込を行う拡張コメント1～４から対象を選択します。 拡張コメントを指定するには，プロジェクトデータの共通コメント"COMMENT" を選択する必要があります。

No.	名称	内容
⑨	拡張コメント範囲設定	PC照合/書込を行う拡張コメントのデバイスとその範囲設定します。 設定可能なデバイスは次のとおりです。 X, Y, 特M(M9000以降), 特D(D9000以降), M, L, S, B, F, T, C, D, W, R, P, I 設定可能なデバイス範囲は，そのCPUが持つ各デバイスの最大値となります。
⑩	拡張コメントメモリ容量	拡張コメントメモリ容量を表示します。
⑪	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
⑫	次へ(N)	PC照合/書込コメント範囲設定を確定して，次の画面に進みます。
⑬	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

(2) プログラム別コメント範囲設定

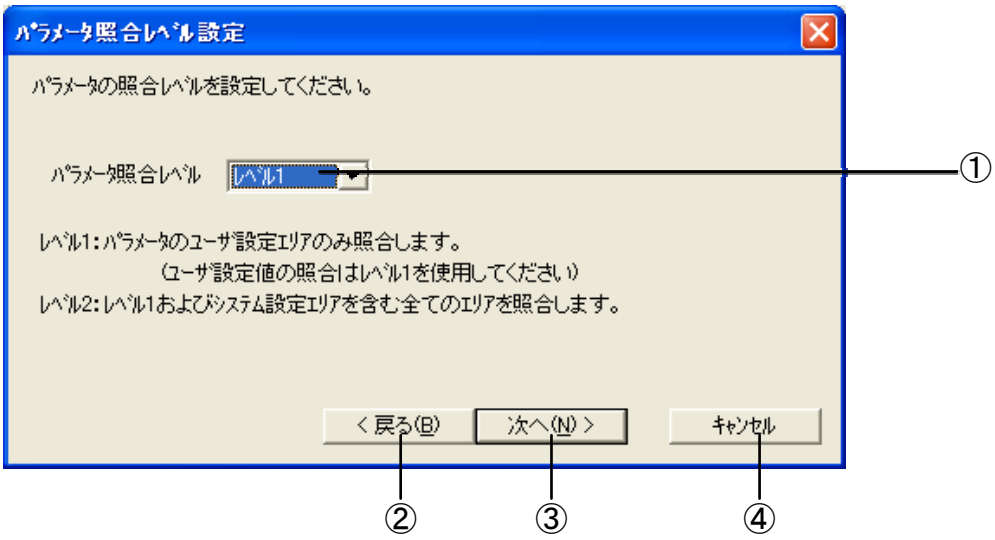


[画面説明]

No.	名称	内容
①	PC/GPPA形式コメント名	GPPA形式で書込側のデータ名を表示します。 GX Developer形式コメント名で「MAIN」を選択したときは「メイン」,「SUB1」を選択したときは「サブ」と表示します。
②	GX Developer形式コメント名	PC書込対象とするコメント名を選択します。 プロジェクトデータの選択時に指定したプログラム別コメントがリスト表示されます。
③	デバイス範囲設定	PC照合/書込を行うプログラム別コメントのデバイスとその範囲設定します。設定可能なデバイス範囲は,そのCPUが持つ各デバイスの最大値となります。
④	カナ/漢字コメントメモリ容量	カナ/漢字コメントメモリ容量を表示します。

4.8 パラメータ照合レベルの設定

パラメータの照合レベルを設定します。
この設定は，プロジェクトデータのパラメータを選択した場合に表示されます。



［画面説明］

No.	名称	内容
①	パラメータ照合レベル	PC照合時のパラメータ照合レベルを選択します。 デフォルトは「レベル１」です。
②	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
③	次へ(N)	パラメータ照合レベルを確定して，次の画面に進みます。
④	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

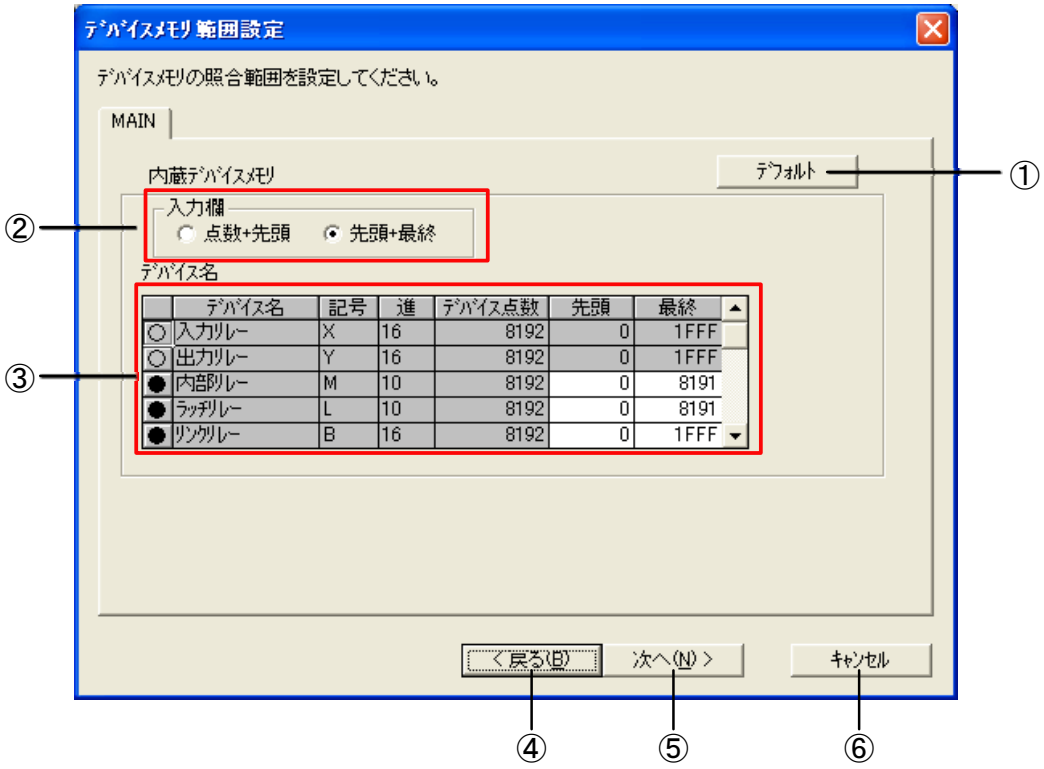
「レベル２」を選択した場合，ユーザ設定エリア以外のパラメータエリアの照合も行います。
ユーザ設定エリア以外のパラメータエリアの照合で不一致が検出された場合は，以下のメッセージが表示されます。照合結果のメッセージに応じて処置を行ってください。

メッセージ	処　置
パラメータブロックのヘッダ情報が不一致です。	ユーザ設定エリア以外のエリアで不一致箇所が存在します。 (*1)CPUに書き込んだパラメータを再度PC書込してください。
認識できないパラメータブロックが存在します。	CPU側とGX Developer側で，プロジェクトを作成した際のGX Developerのバージョンが異なります。 CPUの動作には，影響ありません。 レベル2の照合を一致させる場合は，安全のためGX Developerのバージョンの最新版をインストール後，CPUからパラメータを読み出し，再度CPUに書き込んでください。

(*1)：CPUのユーザ設定エリア以外のエリアが，ノイズ等の影響により不正な状態になる場合があります。その場合，CPUでパラメータ関係のエラーが発生する可能性がありますが，「レベル1」で照合をしても不一致を検出できません。

4.9 デバイスメモリ範囲設定

デバイスメモリの照合/書込範囲を設定します。
この設定は，プロジェクトデータのデバイスメモリを選択した場合に表示されます。



（上図はPC照合時の画面です）

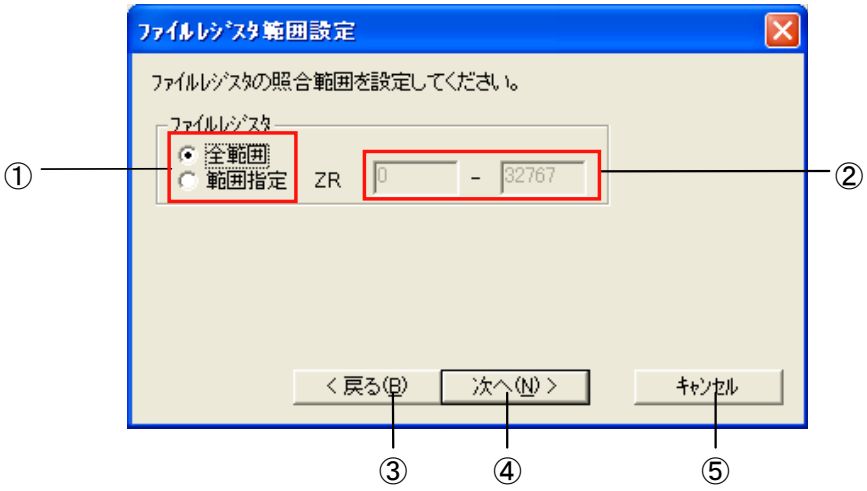
［画面説明］

No.	名称	内容
①	デフォルト	デバイスメモリ範囲設定をデフォルト状態にします。ボタンをクリックすると，③デバイスメモリ範囲設定が初期の状態に戻ります。 初期の状態は，PCパラメータのデバイス設定の範囲となります。
②	入力欄	デバイスメモリ範囲一覧の入力方式を「点数＋先頭」か「先頭＋最終」か選択します。
③	デバイスメモリ範囲一覧	デバイスメモリの範囲を設定します。
④	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
⑤	次へ(N)	デバイスメモリ範囲を確定して，次の画面に進みます。
⑥	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

4.10 ファイルレジスタ範囲設定

ファイルレジスタのPC照合/書込範囲を設定します。
この設定は，プロジェクトデータのファイルレジスタを選択した場合に表示されます。

(1) QCPU(Qモード)，QnACPU

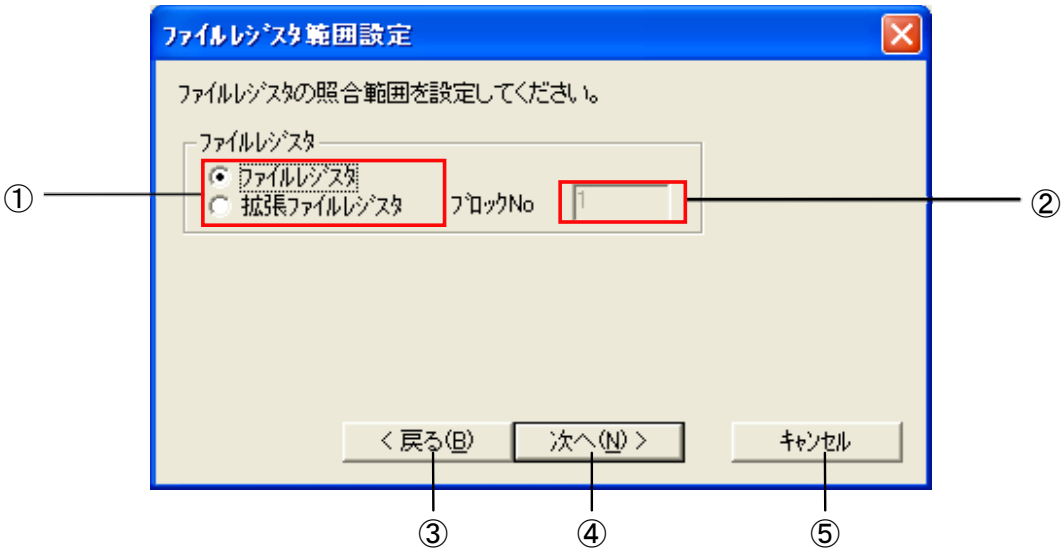


（上図はPC照合時の画面です）

[画面説明]

No.	名称	内容
①	全範囲/範囲指定	ファイルレジスタの範囲設定を全範囲/範囲指定から選択します。 PC書込設定時は，「全範囲」は選択できません。
②	ファイルレジスタ範囲	ファイルレジスタの範囲を設定します。 設定が可能な範囲は以下のとおりです。 ユニバーサルモデルQCPU　0～4184063 ユニバーサルモデルQCPU以外　0～1042431
③	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
④	次へ(N)	ファイルレジスタ範囲設定を確定して，次の画面に進みます。
⑤	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

(2) ACPU,QCPU(Aモード)



(上図はPC照合時の画面です)

[画面説明]

No.	名称	内容
①	ファイルレジスタ/ 拡張ファイルレジスタ選択	対象をファイルレジスタと拡張ファイルレジスタから選択します。
②	拡張ファイルレジスタ ブロックNo	拡張ファイルレジスタのブロック番号を指定します。 設定範囲は1～256です。
③	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
④	次へ(N)	ファイルレジスタ範囲設定を確定して，次の画面に進みます。
⑤	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

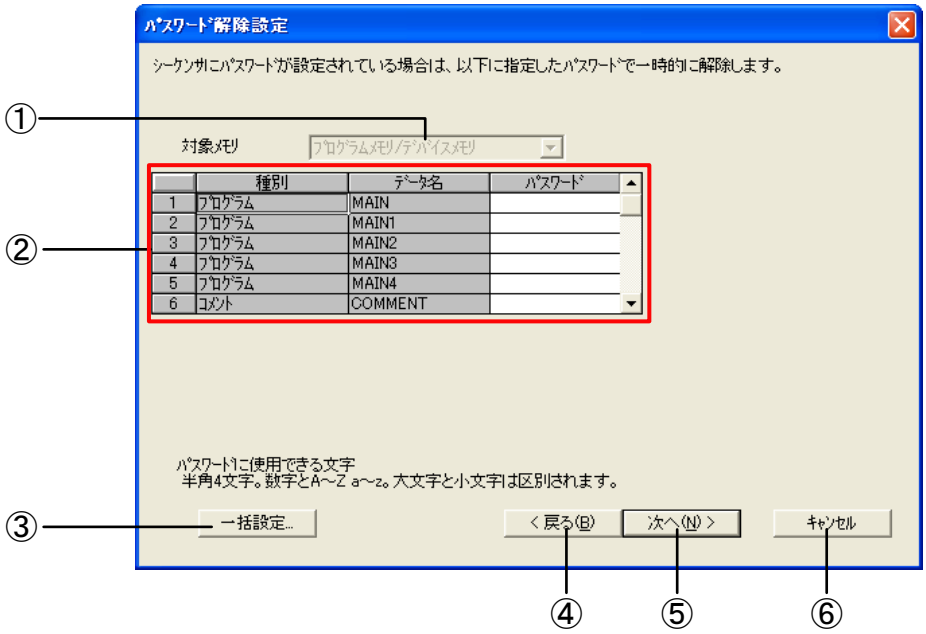
4.11 パスワード・キーワード解除設定

4.11.1 パスワードの解除設定（QCPU(Qモード)）

CPU内のデータ保護のために設定したパスワードを，PC照合/PC書込時に一時的に解除するパスワードを設定します。
この設定は，プロジェクトデータのプログラム，デバイスコメント，デバイス初期値を選択した場合に表示されます。

ポイント

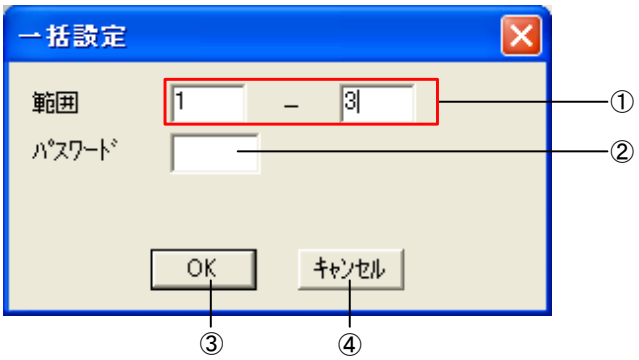
この設定は，PC照合/PC書込時に一時的に保護を解除するためのもので，CPUに設定されたパスワードを変更するものではありません。
また，PC書込を行うプロジェクトに設定したパスワードに変更することはできません。
パスワードの変更は，GX Developerにて実施してください。



[画面説明]

No.	名称	内容
①	対象メモリ	パスワード解除する対象メモリを表示します。 プロジェクトデータで選択した対象メモリが表示されます。
②	パスワード設定一覧	プロジェクトデータから選択したデータ（プログラム，デバイスコメント，デバイス初期値(PC書込設定時のみ)）を一覧表示し，それぞれに解除するパスワードを設定することができます。 パスワードは半角4文字で設定してください。パスワードに設定可能な文字は，数字とA～Zとa～zのみとなります。アルファベットの大文字と小文字は区別されます。入力は「*」でマスクされます。
③	一括設定ボタン	パスワード一括設定ダイアログを表示します。 パスワード一括設定で設定した内容は，パスワード設定一覧に反映されます。
④	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
⑤	次へ(N)	パスワード解除設定を確定して，次の画面に進みます。
⑥	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

≪一括設定ダイアログ≫

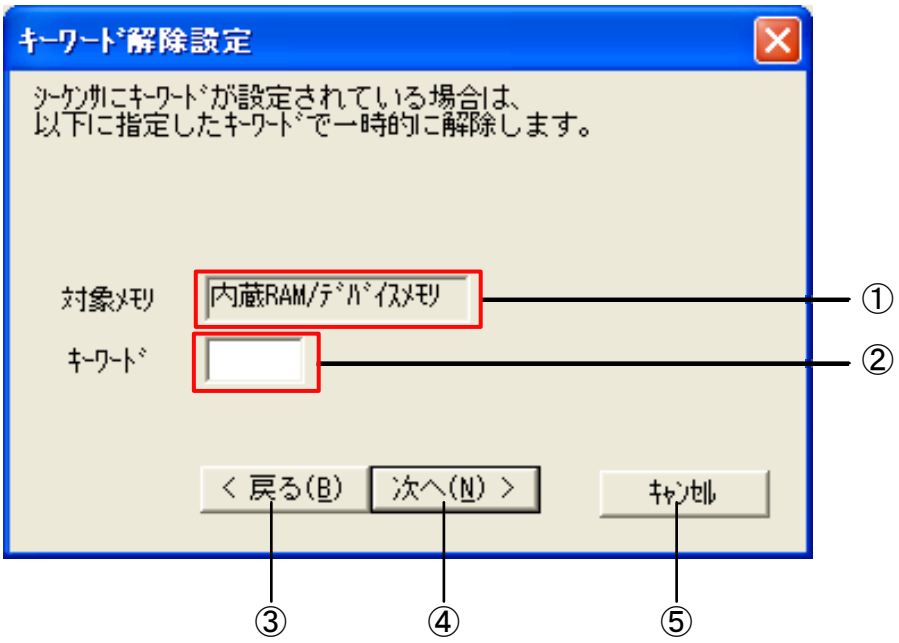


［画面説明］

No.	名称	内容
①	一括設定範囲	パスワードを一括設定する行範囲を指定します。
②	パスワード	一括設定するパスワードを入力します。 数字とA～Z，a～zのみ入力できます。大文字と小文字は区別されます。 入力は「*」でマスクされます。
③	OK	QCPU(Qモード)のパスワード解除設定ダイアログの指定した範囲にパスワードを設定します。
④	キャンセル	処理をキャンセルして，パスワード解除設定(QCPU(Qモード))に戻ります。

4.11.2 キーワード解除設定ダイアログ(QnACPU)

CPU内のデータ保護のために設定したキーワードを，PC照合/PC書込時に一時的に解除するキーワードを設定します。
この設定は，プロジェクトデータのプログラム，デバイスコメント，デバイス初期値を選択した場合に表示されます。

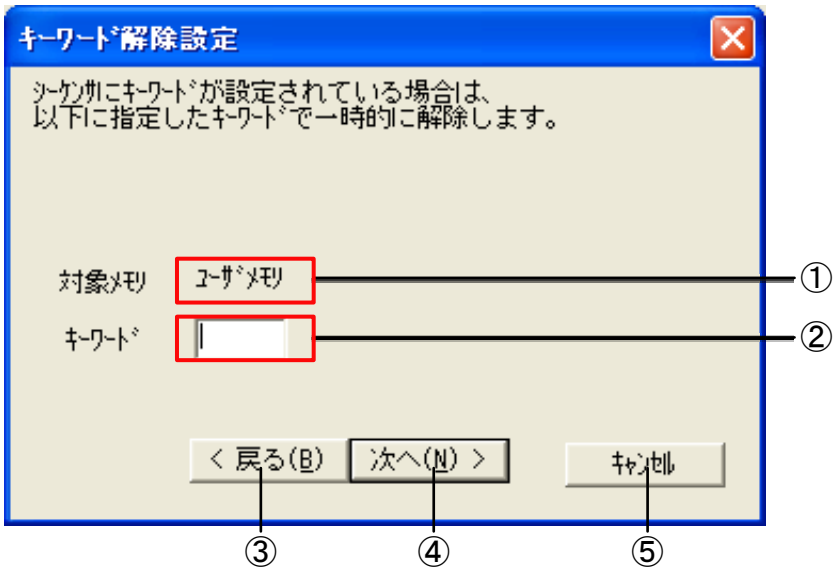


［画面説明］

No.	名称	内容
①	対象メモリ	キーワード解除する対象メモリを表示します。 プロジェクトデータで選択した対象メモリが表示されます。
②	キーワード	キーワードを設定します。 キーワードは半角6文字の数字を設定してください。入力は「*」でマスクされます。
③	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
④	次へ(N)	キーワード解除設定を確定して，次の画面に進みます。
⑤	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

4.11.3 キーワード解除設定ダイアログ(ACPU)

CPU内のデータ保護のために設定したキーワードを，PC照合/PC書込時に一時的に解除するキーワードを設定します。

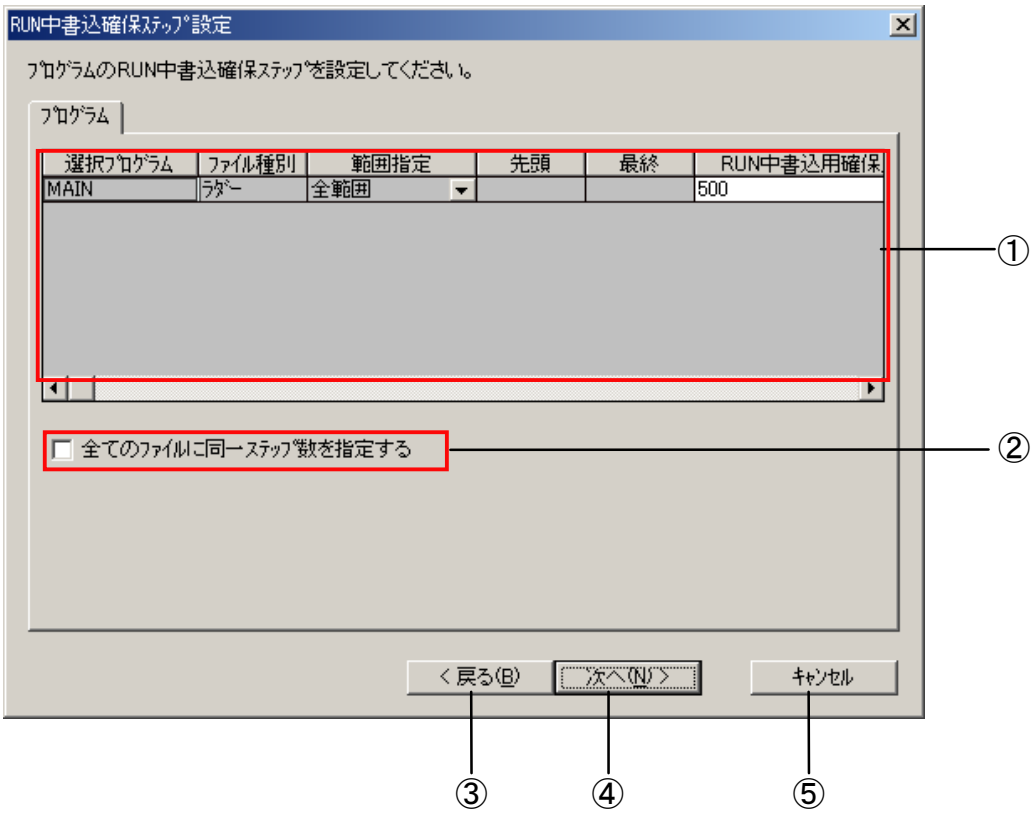


［画面説明］

No.	名称	内容
①	対象メモリ	キーワード解除する対象メモリを表示します。 「ユーザメモリ」を固定で表示します。
②	キーワード	キーワードを設定します。 キーワードは半角1～6文字で設定してください。設定可能なキーワードは，数字とA～Fのみとなります。入力は「*」でマスクされます。
③	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
④	次へ(N)	キーワード解除設定を確定して，次の画面に進みます。
⑤	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

4.12 RUN中書込確保ステップ設定(QCPU(Qモード),QnACPU)

プログラムのRUN中書込確保ステップを設定します。
PC書込設定時に，プロジェクトデータのプログラムを選択した場合表示されます。
ただし，Q00JCPU,Q00CPU,Q01CPUを選択した場合は表示されません。

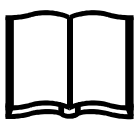


[画面説明]

No.	名称	内容
①	プログラム一覧	データ選択ダイアログで選択したプログラムの一覧について，RUN中書込確保ステップを入力します。範囲指定は全範囲固定となります。確保可能なステップ数は0 ～ 選択PCタイプの最大ステップ数となります。
②	全てのファイルに同一ステップ数を指定するチェックボックス	チェックし，一番上の行のRUN中書込確保ステップ数を入力すると，他の行も同じ値に変更されます。
③	戻る(B)	設定をキャンセルして，前の画面に戻ります。
④	次へ(N)	RUN中書込確保ステップ設定を確定して，次の画面に進みます。
⑤	キャンセル	設定をキャンセルして，PC照合・書込および接続経路の設定に戻ります。

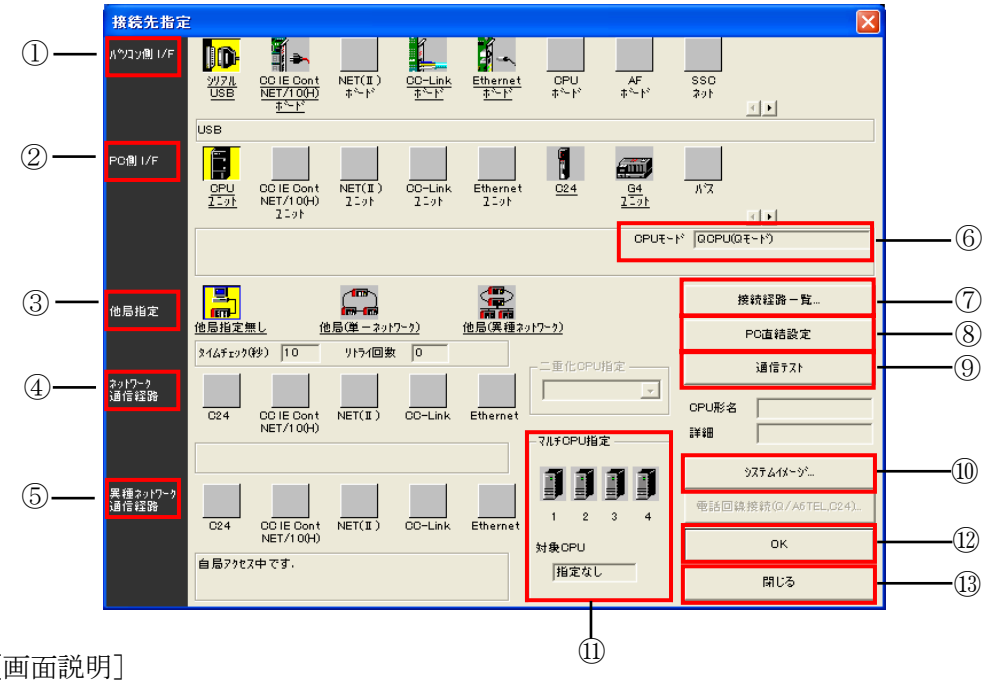
4.13 接続先指定ダイアログ

CPUへの接続経路を設定します。



接続先指定の詳細については，GX Developerオペレーティングマニュアル(SH-080356)を参照ください。

［画面］

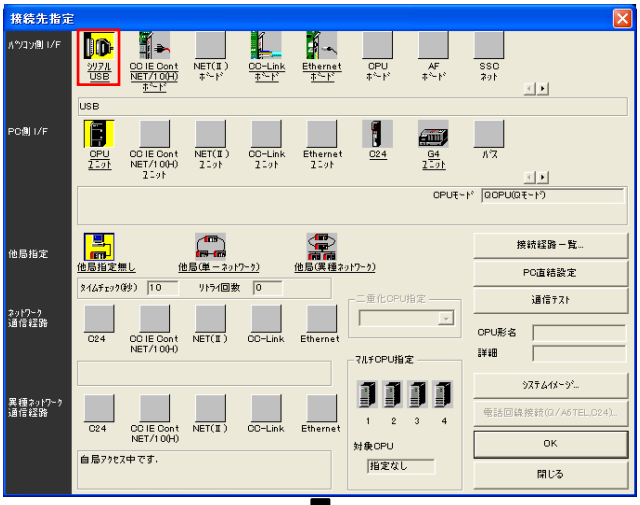


［画面説明］

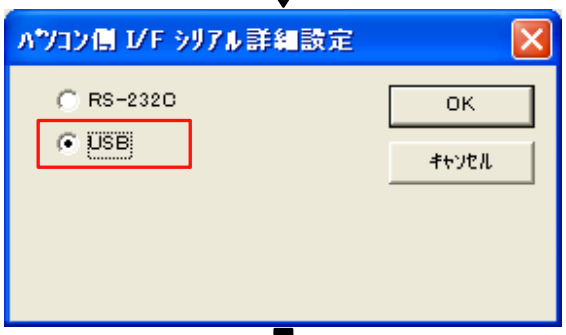
No.	名称	内容
①	パソコン側I/F	CPUと接続するパソコンのインタフェースを設定します。
②	PC側I/F	パソコンと接続するCPU，または，ユニットの種類と詳細を設定します。
③	他局指定	パソコンと接続するCPUが自局か他局か選択し，交信タイムチェック，リトライ回数を設定します。また他局の場合はネットワークの種類を設定します。
④	ネットワーク通信経路	アクセスするネットワークの種類と，ネットワークNo.，局番を設定します。
⑤	異種ネットワーク通信経路	2種類のネットワークを介して他局にアクセスする場合に先頭I/O No.，局番を設定します。
⑥	CPUモード表示欄	接続しているCPUのモードを表示します。
⑦	接続経路一覧ボタン	接続経路一覧ダイアログを表示します。
⑧	PC直結設定ボタン	PC直結指定に変更します。
⑨	通信テスト	接続先指定画面で設定したアクセス先のCPUに対して，正常にアクセスできるかテストします。正常にアクセスできる場合は，アクセス先のCPUの形名をCPU形名表示欄に表示します。
⑩	システムイメージボタン	設定した接続経路をイラストで示します。
⑪	マルチCPU指定	アクセス先がマルチCPUの場合に指定します。
⑫	OK	接続先指定を確定してPC照合・書込および接続経路設定に戻ります。
⑬	閉じる	接続先指定を閉じてPC照合・書込および接続経路設定に戻ります。

4.13.1 接続先設定手順

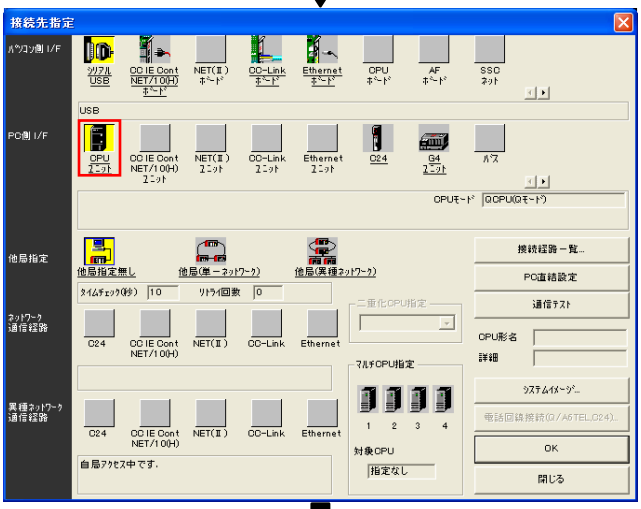
接続先設定は,次の手順で行ってください。
ここでは, QCPU(Qモード)とパソコンをUSBで接続する場合を例として説明しています。その他の接続先設定については, GX Developerオペレーティングマニュアルを参照ください。



1. 「パソコン側I/F設定」の「シリアル・USB」をダブルクリックします。



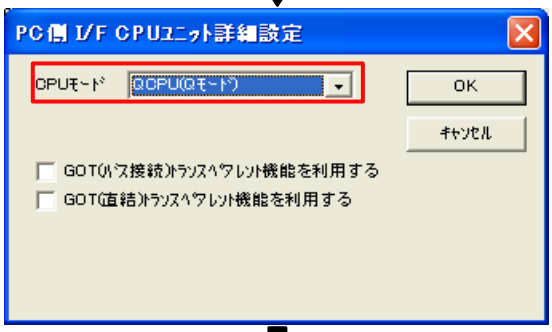
2. 「USB」をクリック, OK ボタンをクリックします。



3. 「PC側I/F設定」の「CPUユニット」をダブルクリックします。

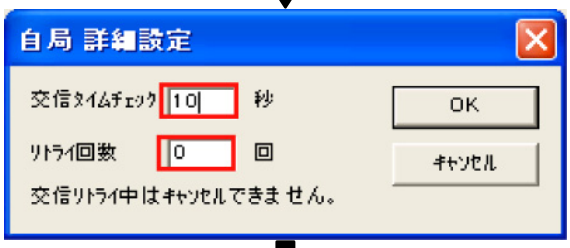
次ページへ

前ページから



4. 「QCPU（Qモード）」を選択し，OK ボタンをクリックします。

5. 「他局指定」の「他局指定無し」をダブルクリックします。



6. 「交信タイムチェック」，「リトライ回数」を入力し，OK ボタンをクリックします。

7. OK ボタンをクリックし，設定を終了します。

［制約事項/注意事項］

接続先・経路	制約事項/注意事項
CPU 接続	(1) 伝送速度 ・QCPU(Qモード)，QCPU(Aモード)は，伝送速度を9600bps，19200bps，38400bps，57600bps，115200bpsが設定可能です。 ・バージョン970B以降のQnACPUは，伝送速度を9600bps，19200bps，38400bpsに設定可能です。その他のQnACPUは，9600bps，19200bpsが設定可能です。 ・ACPU(A2USHCPU-S1を除く)は，伝送速度を9600bpsのみ設定可能です。A2USHCPU-S1は，19200bpsが設定可能です。 (2) USB通信時の注意事項 CPUと交信中にUSBケーブルの脱着，CPUのリセットおよび電源OFF/ONを頻繁に行うと交信エラーが発生し復旧しない場合があります。交信エラーから復旧しない場合は，USBケーブルを一度完全に抜いてから5秒以上経過後に，再度装着してください。(本操作後も初回交信時にエラーとなる場合がありますが，2回目以降は正常に機能します)
Ehternet ユニット経由	・Aシリーズ用Ethernet経由してQnACPU，AnUCPU，QCPU(Aモード)にアクセスする場合は，AnA相当になります。 ・Qシリーズ用Ethernetユニットに対して，複数の端末から同時に同一ユニットにTCP/IPを用いて通信を行う場合は，下記の条件を満たしてください。 ① シリアルNo.の上5桁が”02122”以降で機能バージョンB以降のQシリーズ用Ethernetユニット(QJ71E71-100を除く) ② GX Developerを使用して，Ethernetパラメータの”オープン方式”を”MELSOFT接続”に設定する。
CC-Link ユニット経由	(1) CC-Linkマスタ・ローカルユニットのソフトウエアバージョン CC-Link通信，CC-Link G4通信で使用するCC-Linkマスタ・ローカルユニットは，ソフトウエアバージョン”N”以降を使用してください。 (2) CC-Link G4ユニットのソフトウエアバージョン CC-Link G4通信で使用するCC-Link G4ユニットは，ソフトウエアバージョン”D”以降を使用してください。
MELSECNET(Ⅱ)， MELSECNET/10， MELSECNET/H 経由	(1) MELSECNET/10装着局経由 ・接続局がAnNCPU，AnACPUの場合は，経由するネットワークをMELSECNET(Ⅱ)に設定してください。 ・管理局にアクセスする場合は，局番を“0”に設定してください。 (2) MELSECNET(Ⅱ)経由時 ・QnACPU，AnUCPU，および，QCPU(Aモード)に，MELSECNET(Ⅱ)経由でアクセスする場合，AnA相当となります。
計算機リンク/ シリアルコミュニケーション 経由	・計算機リンク接続時に接続局がAnUCPUで，計算機リンクユニットがUC24の場合，MELSECNET/10経由でAnNCPU，AnACPUにアクセスする際には，リモート操作がエラーとなるため，未サポート経路となります。 ・QJ71C24-R2の機能バージョンAを使用する場合，CH1またはCH2のどちらか一方しか使用できません。 ・三菱電機「MELSOFT製品」が片方のインタフェースを使用している場合は，他方のインタフェースを使用できません。 ・QJ71C24-R2の機能バージョンB(それ以降)を使用している場合は，両インタフェースが使用可能です。 ・AJ71QC24-R2，A1SJ71QC24-R2を使用する場合，CH1のみ使用可能で，CH2は使用できません。
リモート パスワード	シリアルコミュニケーションユニット(Qシリーズ用)，Qシリーズ対応Ethernetユニット，Ethernetポート内蔵QCPUにリモートパスワードを設定している場合は，接続することはできません。
Ethernetポート 内蔵CPU直接接続	直結接続で交信できないことがあります。交信できない場合は，CPUおよびパソコンの設定を見直してください。 ・Windowsのファイアウォールまたはセキュリティソフトのファイアウォール設定が有効の場合，AutoLoader実行ファイル実行時のみ無効に変更してください。ダウンロード完了後，設定を有効に戻してください。

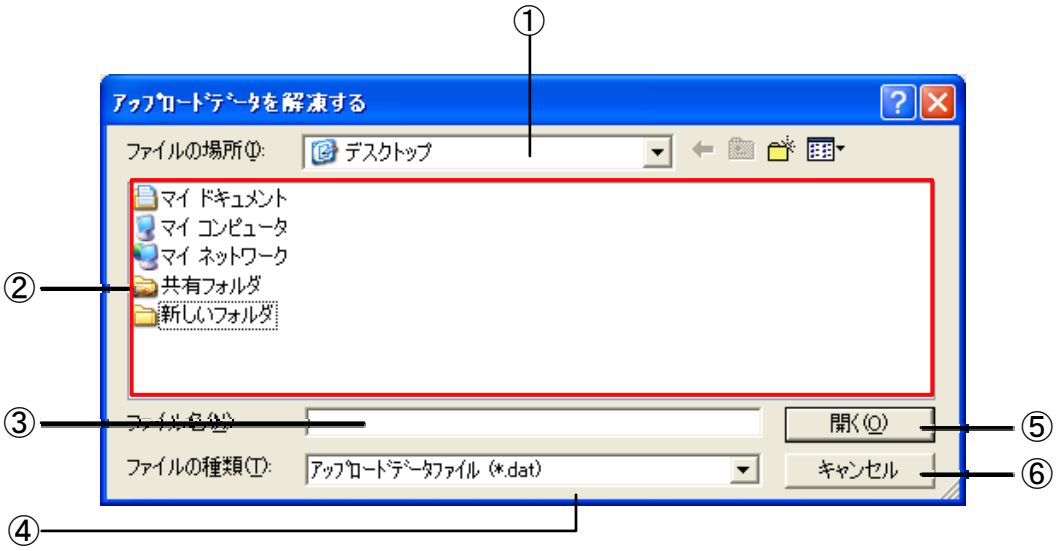
5 アップロード

アップロードは、AutoLoader実行ファイルに設定したPC書込前照合用データとCPU内のデータとをPC照合した結果が不一致となった場合に、CPU内のデータを読み出してログファイルと共に圧縮し、「アップロードデータファイル」として保存するAutoLoader実行ツールの搭載機能です。

AutoLoader設定ツールでは、アップロードデータファイルを解凍して、GX Developer形式のプロジェクトデータとログファイルを生成します。

5.1 アップロードデータファイルの解凍

アップロードデータファイルは，AutoLoader実行ファイルを実行したパソコンのAutoLoader実行ファイルと同じフォルダに保存されます。
このファイルをAutoLoader設定ツールが動作するパソコンに転送し、メインウィンドウのファイルメニュー内の「解凍」を実行することで、GX Developer形式のプロジェクトデータとログファイルに変換されます。



［画面説明］

No.	名称	内容
①	ファイルの場所	現在開いているファイルの場所を表示します。
②	ファイル一覧	現在開いているファイルの場所のファイル一覧を表示します。
③	ファイル名	現在選択されているファイル名を表示します。
④	ファイルの種類	ファイル一覧に表示するファイルの種類を選択します。 アップロードデータファイルは、「アップロードデータファイル(*.dat)」を選択します。
⑤	開く(O)	アップロードデータの解凍と保存を実行します。
⑥	キャンセル	処理をキャンセルして，メインウィンドウに戻ります。

(1) アップロードデータのファイル名

“実行ファイル名(拡張子を除く)[YYMMDD-hhmmss].dat” となります。
(YY：年，MM：月，DD：日付，hh：時間，mm：分，ss：秒。)

例：実行ファイル”工程A.exe”を、2007年7月14日15時00分01秒 に実行すると，
アップロードデータファイル名は“工程A [070714-150001].dat” となります。

(2) アップロードデータの解凍後のフォルダ構成

解凍されたデータは、アップロードデータファイルと同じフォルダに以下のようなフォルダ構造で保存されます。各設定番号のフォルダにアップロードしたデータがGX Developer形式で保存されます。

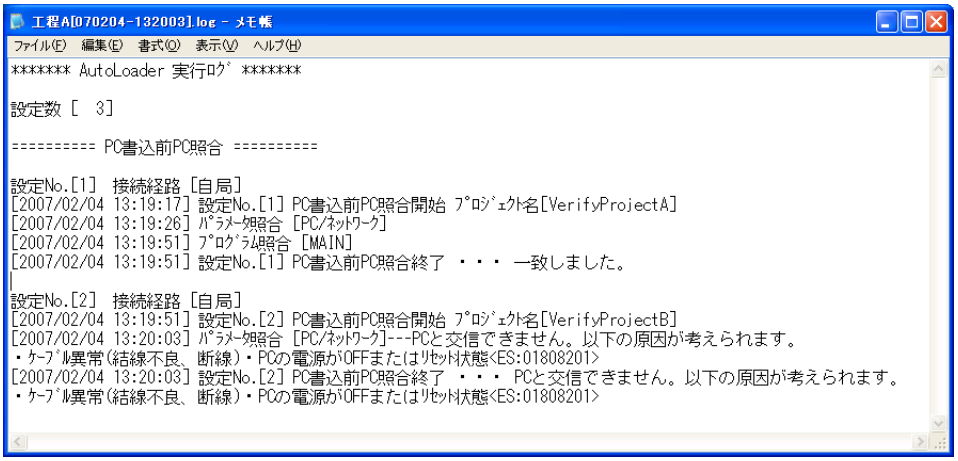
¥[アップロードデータファイル名(拡張子除く)]¥PcRead¥[設定番号]

例：設定を2つ含む実行ファイル”工程A.exe”によって出力されたアップロードデータファイル“工程A[070714-150001].dat”を解凍すると，フォルダ構成は以下のようになります。

```
格納フォルダ--+--工程A[070714-150001].dat                    ……[アップロードデータファイル]
              +--工程A[070714-150001]--+--PcRead¥001--+--工程A[070714-150001].log……[ログファイル]
              +--001--+--Resource
              |       +--Gppw
              |       +--Gppw          }·  (001 GX Developer
              |       +--Project        )  (プロジェクトデータ)
              |       +--ProjectDB
              |
              +--002--+---Resource
              +--Gppw
              +--Gppw                  }·  (002 GX Developer
              +--Project                )  (プロジェクトデータ)
              +--ProjectDB
```

5.2　ログファイル

ログファイルとは，AutoLoader実行ファイルの実行結果を記録するテキストファイルです。AutoLoader実行ファイルを実行したパソコンのAutoLoader実行ファイルと同じフォルダに保存されます。



(1) ログファイルのファイル名

“実行ファイル名(拡張子を除く)[YYMMDD-hhmmss].log”　となります。
(YY：年，MM：月，DD：日付，hh：時間，mm：分，ss：秒。)

例：実行ファイル”工程A.exe”を、2007年7月14日15時00分01秒 に実行すると、
ログファイル名は“工程A [070714-150001].log” となります。

＊　同じフォルダに同名のファイルがあった場合は，上書きされます。

(2) ログファイルの内容

ログファイルには，実行ファイルまたはロールバック実行ファイルの実行結果が保存されます。「PC書込前照合」「PC書込前PC読出」「PC書込」等の処理フェーズごとに、実行した日時、内容、結果が記録されます。

ログファイルの出力例：

1台の CPU に PC 書込前照合を実施せずに PC 書込した場合

```
******* ｵｰﾄﾛｰﾀﾞ 実行ﾛｸﾞ ******* ↓
↓
設定数 [  1]↓
↓
----------- PC書込前照合 -------------↓
設定No.[1]  接続経路 [自局]↓
[2006/08/09 16:24:29] 設定No.[1] PC書込前照合終了 ・・・ ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは指定されていませんでした。
↓
----------- PC書込前PC読出 -------------↓
[2006/08/09 16:24:32] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ読出 [PC/ﾈｯﾄﾜｰｸ/ﾘﾓｰﾄﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]↓
[2006/08/09 16:24:32] ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ読出 [MAIN]---ﾃﾞｰﾀがありません↓
[2006/08/09 16:24:41] ﾃﾞﾊﾞｲｽﾒﾓﾘ読出 [MAIN]↓
[2006/08/09 16:24:41] 設定No.[1] PC書込前PC読出 ・・・ 正常完了しました。
↓
----------- PC書込 -------------↓
[2006/08/09 16:24:41] 設定No.[1] PC書込開始 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名[Q25_01]↓
[2006/08/09 16:24:45] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ書込 [PC/ﾈｯﾄﾜｰｸ/ﾘﾓｰﾄﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]↓
[2006/08/09 16:24:46] ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ書込 [MAIN]↓
[2006/08/09 16:24:54] ﾃﾞﾊﾞｲｽﾒﾓﾘ書込 [MAIN]↓
↓
------------- PC書込後PC照合開始 -------------↓
[2006/08/09 16:24:57] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ照合 [PC/ﾈｯﾄﾜｰｸ]↓
[2006/08/09 16:24:57] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ照合 [ﾘﾓｰﾄﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]↓
[2006/08/09 16:24:59] ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ照合 [MAIN]↓
[2006/08/09 16:25:07] ﾃﾞﾊﾞｲｽﾒﾓﾘ照合 [MAIN]↓
[2006/08/09 16:25:07] 設定No.[1] PC書込終了 ・・・ 正常完了しました。
←
```

ダウンロード設定数

PC書込前PC読出結果

PC書込プロジェクト名

PC書込後PC照合結果

実行日時（[年/月/日 時:分:秒]）

処理内容（[データ名]）．・・・処理結果

PC書込前照合の結果、パラメータが照合不一致となった場合

```
******* AutoLoader 実行ﾛｸﾞ *******

設定数 [  1]

========== PC書込前PC照合 ==========

設定No.[1]  接続経路 [自局]
[2010/04/14 12:32:21] 設定No.[1] PC書込前PC照合開始 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名[Q26UDEH_V]
[2010/04/14 12:32:22] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ照合 [PC/ﾈｯﾄﾜｰｸ]---不一致

不一致には、以下の要因が考えられます。
1)PC照合プロジェクトとCPU内のプロジェクトでパラメータ設定が異なる場合。
2)PC照合プロジェクトとCPU内のプロジェクトを作成したGX Developerのバージョンが異なる場合。

[2010/04/14 12:32:23] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ照合 [ﾘﾓｰﾄﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]
[2010/04/14 12:32:23] ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ照合 [MAIN]

--- ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ開始 ---
[2010/04/14 12:32:25] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ読出 [PC/ﾈｯﾄﾜｰｸ/ﾘﾓｰﾄﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]
[2010/04/14 12:32:26] ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ読出 [MAIN]

PC書込前PC照合で不一致が発生した場合は、ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞﾃﾞｰﾀを設定ﾂｰﾙで解凍し、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄをGX Developerで開いて
実行ﾌｧｲﾙ作成時に使用したﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ照合して不一致箇所の詳細を確認ください。
```

ダウンロード設定数

パラメータ照合不一致

PC書込前照合の結果、プログラム(MAIN)が照合不一致となった場合

```
******* AutoLoader 実行ﾛｸﾞ *******

設定数 [  1]

========== PC書込前PC照合 ==========

設定No.[1]  接続経路 [自局]
[2010/04/14 12:32:21] 設定No.[1] PC書込前PC照合開始 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名[Q26UDEH_V]
[2010/04/14 12:32:22] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ照合 [PC/ﾈｯﾄﾜｰｸ]---
[2010/04/14 12:32:23] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ照合 [ﾘﾓｰﾄﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]
[2010/04/14 12:32:23] ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ照合 [MAIN]---不一致

--- ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ開始 ---
[2010/04/14 12:32:25] ﾊﾟﾗﾒｰﾀ読出 [PC/ﾈｯﾄﾜｰｸ/ﾘﾓｰﾄﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]
[2010/04/14 12:32:26] ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ読出 [MAIN]

PC書込前PC照合で不一致が発生した場合は、ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞﾃﾞｰﾀを設定ﾂｰﾙで解凍し、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄをGX Developerで開いて
実行ﾌｧｲﾙ作成時に使用したﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ照合して不一致箇所の詳細を確認ください。
```

ダウンロード設定数

プログラムMAIN照合不一致

メ　モ

メ　モ

メ　モ

製　品　保　証　内　容

ご使用に際しましては、以下の製品保証内容をご確認いただきますようよろしくお願いいたします。

無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合、当社はお買い上げいただいた販売店を通してご返却いただき、無償で製品を修理させていただきます。

■無償保証期間

製品の無償保証期間は、お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後１年間とさせていただきます。
ただし、当社製品出荷後の流通期間を最長６ヶ月として、製造から18ヶ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。
また修理品の無償保証期間は、修理前の保証期間を超えて長くなることはありません。

■無償保証範囲

使用状態、使用方法および使用環境などが、取扱説明書、ユーザーズマニュアル、製品本体注意ラベルなどに記載された条件、注意事項などに従った正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。

生産中止後の有償修理期間

(1) 当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は、その製品の生産中止後７年間です。
　　生産中止に関しましては、販売店経由にて連絡いたします。
(2) 生産中止後の製品供給（補用品も含む）はできません。

機会損失、二次損失などへの保証責務の除外

無償保証期間の内外を問わず、当社の責任に帰することができない事由から生じた損害、当社の製品の故障に起因するお客様での機会損失、逸失利益、当社の予見の有無に問わず特別の事情から生じた損害、二次損害、事故補償、当社製品以外への損傷およびその他の業務に対する保証については、当社は責任を負いかねます。

製品仕様の変更

カタログ、マニュアルもしくは技術資料に記載されている仕様は、お断りなしに変更される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

三菱電機エンジニアリング株式会社
MITSUBISHI ELECTRIC ENGINEERING COMPANY LIMITED

営業統括部
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-13-5（ヒューリック九段ビル（日本地所第一ビル））
TEL（03）3288-1108　FAX（03）3288-1575

東日本営業所（関東甲信越以北担当）
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-13-5（ヒューリック九段ビル（日本地所第一ビル））
TEL（03）3288-1743　FAX（03）3288-1575

中日本営業所（東海・北陸地区担当）
〒451-0045 名古屋市西区名駅2-27-8（名古屋プライムセントラルタワー 18F）
TEL（052）565-3435　FAX（052）541-2558

西日本営業所（近畿地区担当）
〒530-0003　大阪市北区堂島2-2-2（近鉄堂島ビル 7F）
TEL（06）6347-2985　FAX（06）6347-2983

中国営業グループ（中国・四国地区担当）
〒730-0037　広島市中区中町7-41（広島三栄ビル 7F）
TEL（082）248-5390　FAX（082）248-5391

九州営業所（九州地区担当）
〒810-0001　福岡市中央区天神4-1 -7（第3明星ビル）
TEL（092）721-2202　FAX（092）721-2109

オペレーションに関するお問い合わせは

名古屋事業所 技術サポートセンター
TEL.0568-36-2068　FAX.0568-36-2045
受付／9:00～17:00　月曜～金曜
（土・日・祝祭日、春期・夏期・年末年始の休日を除く通常業務日）

開発元
三菱電機メカトロニクスソフトウエア株式会社

50EM8739-B(1004)MEE

この印刷物は2010年4月の発行です。なお，お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。　2010年4月作成